

かわせみ



Hachidai
Kawasemikai

Kawasemi



190 Kimolai

1991.8 No. 7

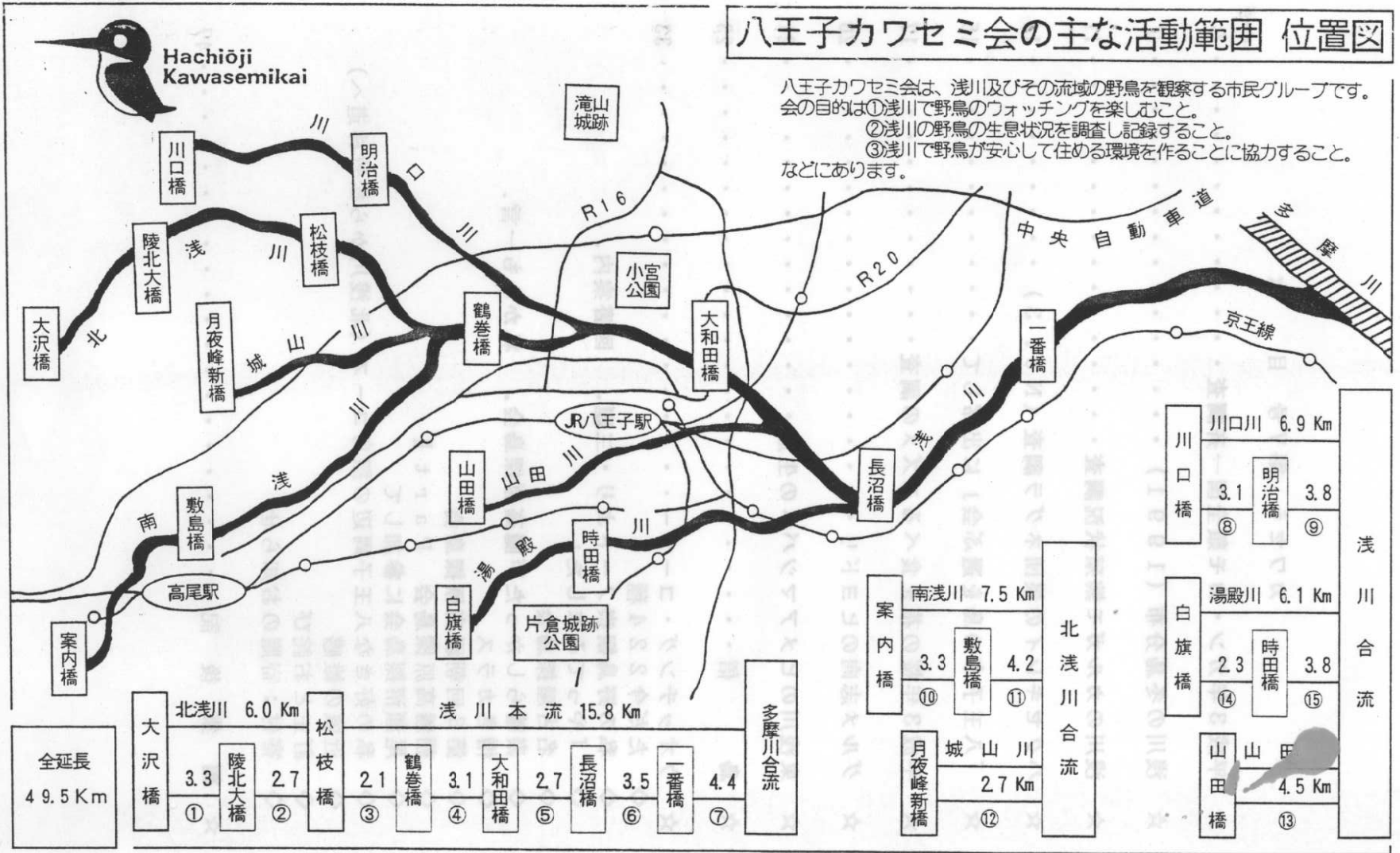
八王子カワセミ会・発行

カワセミ 第7号 目 次

	ページ
☆ 平成3年ガン・カモ類全国一斉調査	3
☆ 浅川の冬鳥分布(1991)	7
☆ 浅川のカルガモ繁殖状況調査	11
☆ ハクセキレイの集団ネグラ調査(No. 3)	14
☆ 「八王子市の鳥を選ぶ会」に出席して	15
☆ 平成3年桜の花を食べるスズメの調査	17
☆ グルメ志向のヒヨドリ	20
☆ 東浅川のヒメアマツバメの生態	21
☆ 鳥 信	23
☆ ウォッチング・コーナー	33
◇ ただ今224種	
◇ 私の野鳥観察ノートより・三題。 図書案内。	
◇ 「やってみました」	
◇ 名古屋探鳥会	
◇ 素晴らしかった戸隠高原探鳥会。 私からも一言。	
◇ 憎きカラス	
◇ 第6回朝霧高原探鳥会	
◇ 朝霧高原探鳥会 Part II	
◇ 尾瀬沼探鳥会に参加して	
◇ 私の好きな八王子周辺の探鳥コース(北浅川から松竹林道へ)	
◇ 近頃の雑感	
◇ 訂正とお詫び	
◇ 寄付：寄贈のお知らせ	
☆ 編集後記	47

八王子カワセミ会の主な活動範囲 位置図

八王子カワセミ会は、浅川及びその流域の野鳥を観察する市民グループです。
 会の目的は①浅川で野鳥のウォッチングを楽しむこと。
 ②浅川の野鳥の生息状況を調査し記録すること。
 ③浅川で野鳥が安心して住める環境を作ること協力すること。
 などにあります。



平成3年ガン・カモ類全国一斉調査結果

—— 11種、3756羽のカモをカウント ——

日本野鳥の会主催のガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査は毎年1月中旬に行われている。八王子カワセミ会は、この調査の一環として平成3年1月13日に浅川の本・支流で一斉にカウントした。

本年は昨年までの調査区域の他に新たに浅川本流の長沼橋から多摩川合流点までを加えた。

この結果、浅川全域をカバーすることとなったが、これは野鳥の識別力の高い会員の増加によって可能となったものである。

昭和59年(1984)から本年までの年別の調査範囲は、第1表のとおりである。

(第1表) 調査区域の変遷 (○印の区域を実施)

年次	北浅川		浅川 上流			浅川 下流		川口川		南浅川		城山川	山田川	湯殿川	延長 (Km)
	大沢 〜 陵北	陵北 〜 松枝	松枝 〜 鶴巻	鶴巻 〜 大和	大和 〜 長沼	長沼 〜 一番	一番 〜 合流	川口 〜 明治	明治 〜 合流	案内 〜 敷島	敷島 〜 合流				
1984				○	○										5.8
1985				○	○										5.8
1986			○	○	○										7.9
1987			○	○	○										7.9
1988		○	○	○	○			○	○		○			○	27.8
1989		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	38.3
1990	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	41.6
1991	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49.5



本年の調査区域は延長49.5kmとなった。これを15の区域に分割し、1月13日の午前8時～12時の間、会員が分担して調査したものであり、各区域別の具体的な範囲及び調査担当者の氏名は第2表のとおりである。

(第2表) 平成3年の浅川における調査区域及び調査担当者

1	北浅川	大沢橋		3.3	今井達郎 関根伸一	
		陵北大橋				
2	6.0km		2.7		河村道寛 河村洋子	
3	浅川	上流	松枝橋		2.1	三好恒雄
			鶴巻橋			
4	15.8Km	7.9	大和田橋		3.1	藤江豊 田中英吉 堀江禎子 宮越
5			長沼橋			
6			一番橋			
7	下流	7.9	多摩川合流		3.5	門口一雄 門口裕子 渡嘉敷敏子 河浦丹二郎
8	川口川	川口橋		3.1	清水茂 大関豊	
		明治橋				
9	6.9Km		3.8		粕谷和夫 北平章	
10	南浅川	案内橋		3.3	川上恚	
		敷島橋				
11	7.5Km		4.2		榛沢努 久保田ヤス子 中村保一	
12	城山川	月夜峰新橋		2.7	木村晴美	
		北浅川合流				
13	山田川	山田橋		4.5	馬場裕 阪田友道	
		浅川合流				
14	湯殿川	白旗橋		2.3	平沢辰夫 三富恒男	
		時田橋				
15	6.1Km		3.8			
		合計		49.5		

本年のカウント結果は、第3表のとおりで、カモ11種、3756羽を記録した。種類別では多い順にコガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモで、この4種で全体の98%を占めた。極めて少ないものはアメリカコガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロで、マガモ、キンクロハジロ、ミコアイサも少なかった。100m当たりの数で区域別にみると、支流部や上流部で少なく、平坦部の市街地で多いことがよくわかる。また、個体数の多い所は種類数も多いことが明瞭である。

(第3表) 平成3年における浅川の区域別カモ出現数

(1991' 1. 13)

		マガモ	カルガモ	コガモ	アメリカコガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	キンクロハジロ	ミコアイサ	計	100m当たりの数	種類数
北浅川	大沢～陵北	3	45	42						1			91	3	4
	陵北～松枝		13	60					3				76	3	3
浅川上流	松枝～鶴巻		62	101				12	37				212	10	4
	鶴巻～大和	2	135	127				7	230				501	16	5
	大和～長沼		92	240	1			203	101	5		8	650	24	7
同下流	長沼～一番		94	242			3	85	87	8		14	533	15	7
	一番～合流		105	203		1		91	172	5	1	8	586	13	8
川口川	川口～明治	2	51	41					1				95	3	4
	明治～合流	3	180	55					100				338	9	4
南浅川	案内～敷島		21										21	1	1
	敷島～合流	4	140	106			1	15	34				300	7	6
城山川		3	19	17				2	16				57	2	5
山田川			52	4									56	1	3
湯殿川			78	88				2	72				240	4	4
計		17	1087	1326	1	1	4	417	853	19	1	30	3756	8	11



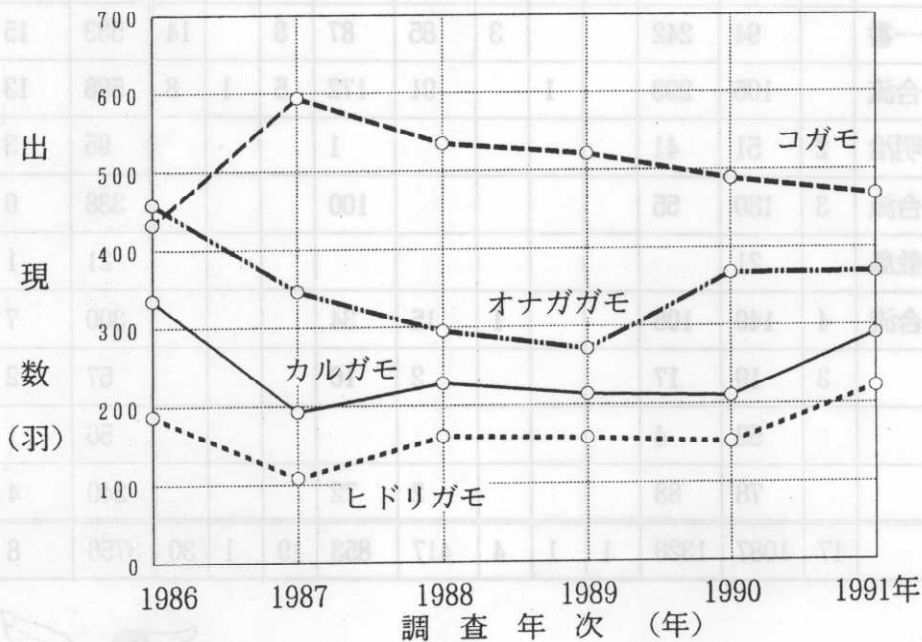
次にカモ出現数の経年変化を浅川本流の松枝橋～長沼橋間でみると（第4表）。
 総数では1986年以降毎年ほぼ1200から1400羽の範囲に入っており、殆ど変化していない。

この内、上位4種について種類別に出現数をグラフ化したものが、第1図である。
 （とりまとめ：粕谷和夫 阿江範彦）

（第4表）浅川本流（松枝橋～長沼橋 7.9Km）の1月中旬における年次別カモ出現数

	1986	1987	1988	1989	1990	1991
コガモ	432	593	534	520	488	468
オナガモ	457	346	295	271	367	368
カルガモ	335	193	228	213	210	290
ヒドリガモ	187	108	161	158	152	222
ハシビロガモ	3	18	12	16	17	5
マガモ	4	3	9	2		2
ミコアイサ				11		8
キンクロハジロ					3	
オカヨシガモ				2		
アメリカコガモ						1
オシドリ	1					
計	1419	1261	1239	1193	1237	1364
100m当たりの数	18	16	16	15	16	17

（第1図）第4表の内、上位4種の種類別出現数



浅川の冬鳥分布 (1991)

—— 60種、11000羽を確認 ——

平成3年ガン・カモ類全国一斉調査と同時にカモ類以外の浅川の全野鳥をカウントした、調査範囲、担当者等は「平成3年ガン・カモ類全国一斉調査結果」の記事の、(第2表)と同じである。

出現した野鳥の種類は60種、総数は約11,000羽で、調査区域別の内訳は、第2図のとおり、また種類別内訳は、第6表のとおりである。

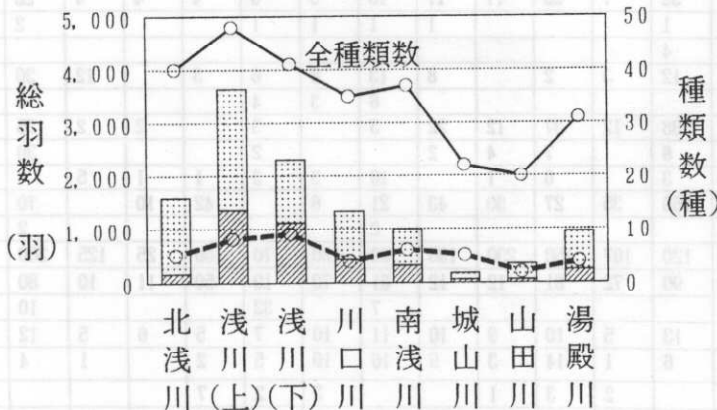
(第5表) 浅川の冬鳥の種類数と総羽数

1991' 1.13 調 査	種類数			総羽数		
	カモ類	カモ以外	計	カモ類	カモ以外	計
北浅川	5	35	40	167	1,425	1,592
浅川上流	8	40	48	1,363	2,277	3,640
浅川下流	9	32	41	1,119	1,193	2,312
川口川	4	31	35	433	909	1,342
南浅川	6	29	37	321	677	998
城山川	5	17	22	57	119	176
山田川	2	18	20	56	293	349
湯殿川	4	27	31	240	707	947
計	11	49	60	3,756	7,600	11,356

(第2図) 浅川の冬鳥の区域別種類数と総羽数 (1991')

(カモの総数 [斜線]) と種類数 [点線])

(カモ以外の総数 [格子])

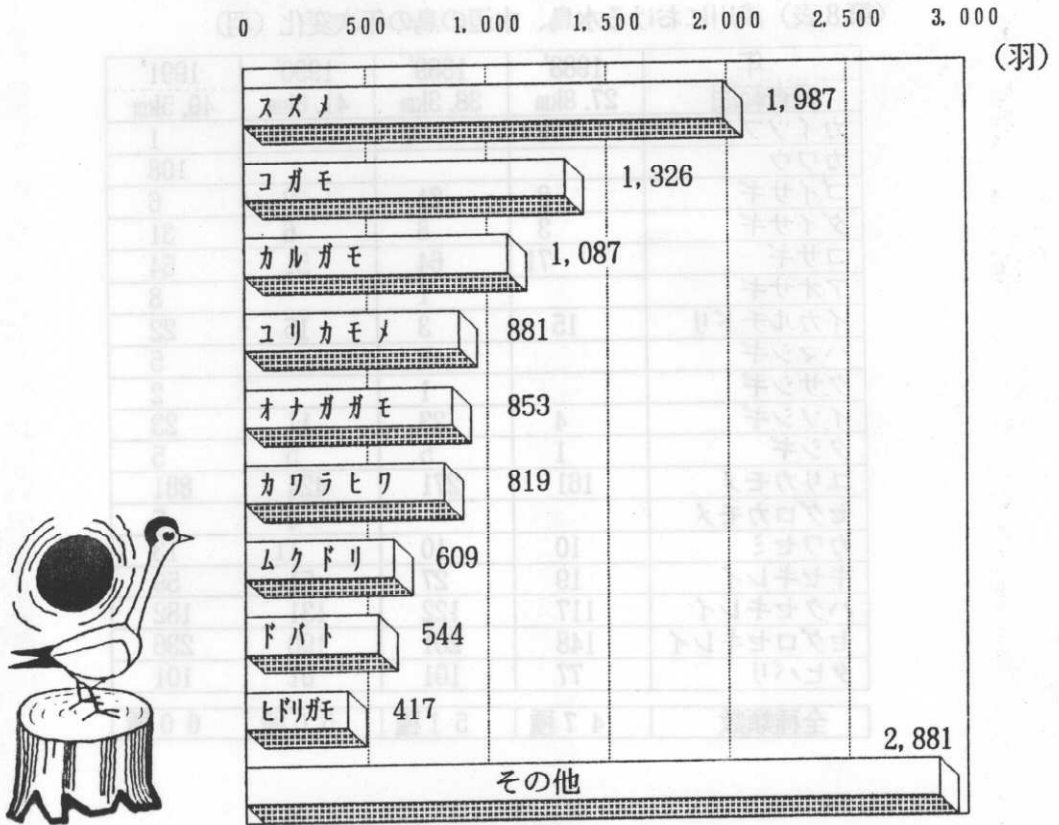


(第6表) 浅川における冬鳥の出現数 (1991' 1. 13)

番号	名称	北浅川		浅川上流			浅川下流		川口川		南浅川		城山	山田	湯殿	合計
		大沢 陵北	陵北 松枝	松枝 鶴巻	鶴巻 大和	大和 長沼	長沼 一番	一番 合流	川口 明治	明治 合流	案内 敷島	敷島 合流	月夜 合流	山田 合流	白旗 合流	
5	カイツリ						1									1
40	カウ				2	72	33	1								108
52	イサギ					2	1	1	i		i					6
57	イサギ			1	1	9	10	8				2				31
59	コサギ	5	3	3	8	8	7	5	4	3		2	1		5	54
62	アサギ				2	4		2								8
87	マモ	3			2				2	3		4	3			17
88	カルサギ	45	13	62	135	92	94	105	51	180	21	140	19	52	78	1,087
89	コサギ	42	60	101	127	240	242	203	41	55		106	17	4	88	1,326
89	アサカサギ					1										1
91	ヨサギ							1								1
92	ホカヨシサギ						3					1				4
93	ヒドリサギ			12	7	203	85	91				15	2		2	417
95	ホナガサギ		3	37	230	101	87	172	1	100		34	16		72	853
97	ハシビロサギ	1				5	8	5								19
104	キンクロハジロ							1								1
115	ミコアサギ					8	14	8								30
120	トビ			1	1	2										4
145	チョウゲンク				1	1										2
149	コジュケイ	1													1	2
151	キジ					1										1
177	イカルチドリ	5	5	4	4	2	1			1						22
196	ハシサギ					5										5
214	クササギ		1			1										2
218	イソサギ		2	1		9		8		1		2				23
230	クササギ		1	1		1							2			5
240	セグロカモメ				2	2	1									5
245	ユカケメ		26	27	196	291	245	18	14			53	9		2	881
296	キジバト	18	26	18	6	18	4	1	26	15	16	6	20	15	17	206
323	カササギ	2	6	1	1		1			1	1					13
331	アサギ	1														1
339	コサギ	1	5				1		3	1	2				2	15
344	ヒヨ		1	2												3
354	キセキレイ	1	5	2	1	1			15	4	14	4	2	3	7	59
355	ハクセキレイ	3	25	21	15	27	12	13	16	10	4	14	9	1	12	182
356	セグロセキレイ	17	45	27	16	18	9	4	30	17	3	15	7	11	17	236
363	ヒドリ		11	4	5	33	10	4	6	7		8	3	4	6	101
367	ヒヨドリ	37	28	28	16	36	7	27	32	30	22	16	5	50	25	359
369	モズ	2	6	1	3	8	4	2	5	2	3	1		1	3	41
375	カワガラス	1									1					2
387	ジョウビタキ	5	4	2	3	7	2		1		3	2		3	2	34
400	アカハラ					1										1
402	シロハラ													1		1
405	ツグミ	12	11	32	7	28	11	11	13	5	9	4	4	4	28	179
410	ウグイス	1	3	1				1	1	1	1				2	11
435	エサガ	10		4												14
441	シヨウカラ		14	12	3	2		8	13	8	6	3		12	20	101
444	メジロ								6	3	4				3	16
449	オオソバ	9	125	38	12	37	12	22	3		3		2	2	25	290
455	カササギ	2	86	8		7	4	2			2				30	141
461	アサギ	5	9	3		6	1		10	3	3	1	1	5	6	53
471	カハラ	45	330	160	35	27	30	43	21	6		42	10		70	819
496	シ		3						2						2	7
488	スズメ	40	165	120	197	150	230	195	80	190	70	100	25	125	300	1,987
493	ムクドリ	6	35	90	72	81	12	12	61	70	19	50	11	10	80	609
498	ホナガ	22	11						7		32				10	82
503	ハシボロガラス	9	25	13	5	10	9	10	11	10	7	5	6	5	12	137
504	ハシボロガラス	1	106	6	1	14	3	9	16	10	5	2		1	4	178
A	アヒル				2	3	1			3	2	7				18
B	ドバト	3	38	6	56	43	32	92	26	85	25	80	2	40	16	544
合計		355	1237	849	1174	1617	1227	1085	518	824	279	719	176	349	947	11,356
種類数		31	34	34	33	43	35	32	30	28	26	28	22	20	31	60

第6表から総羽数の多い順に上位9種までを並べ変えてグラフ化したものが、第3図である。

(第3図) 浅川に多い冬鳥上位9種 (1991')



第3図の内、カモ類以外の鳥及びキジバト、ヒヨドリ、ツグミ等比較的数の多い鳥の昭和63年以降の年次別出現数の変遷は第7表のとおりである。

(第7表) 浅川における出現数の多い冬鳥の年次変化 (羽)

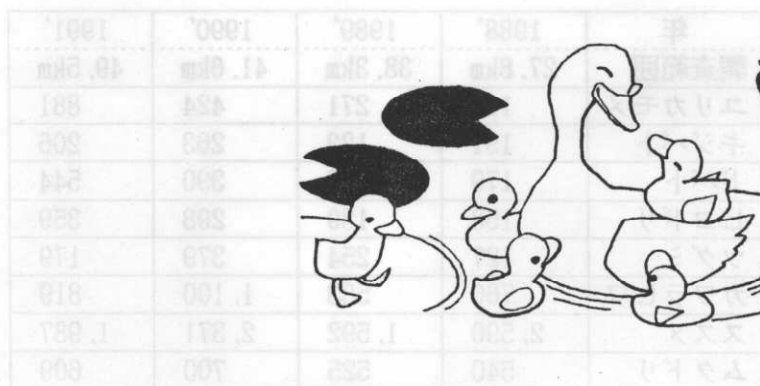
年	1988'	1989'	1990'	1991'
調査範囲	27.8km	38.3km	41.6km	49.5km
ユリカモメ	161	271	424	881
キジバト	191	123	263	206
ドバト	179	258	390	544
ヒヨドリ	158	189	298	359
ツグミ	127	254	379	179
カワラヒワ	766	583	1,100	819
スズメ	2,590	1,592	2,371	1,987
ムクドリ	540	525	700	609

次に水辺の鳥の年次変化を第8表に整理した。カワセミは10～13羽の範囲でそれほど多くない。カワウは昨年の2月頃から浅川に出現したので、毎年1月中旬のカウントである本調査には本年からの登場である。セグロカモメは90年からの登場である。

(1991) 鳥の巻 (とりまとめ：粕谷和夫 阿江範彦)

(第8表) 浅川における水鳥、水辺の鳥の年次変化(羽)

年	1988'	1989'	1990'	1991'
調査範囲	27.8km	38.3km	41.6km	49.5km
カイツブリ	3	2		1
カワウ				108
ゴイサギ	8	21	2	6
ダイサギ	3	8	6	31
コサギ	71	64	51	54
アオサギ		1		8
イカルチドリ	15	3	15	22
ハマシギ		5		5
クサシギ		1		2
イソシギ	4	23	11	23
タシギ	1	5	5	5
ユリカモメ	161	271	424	881
セグロカモメ			4	5
カワセミ	10	10	11	13
キセキレイ	19	27	51	59
ハクセキレイ	117	122	131	182
セグロセキレイ	148	201	190	236
タヒバリ	77	101	61	101
全種類数	47種	51種	50種	60種



カルガモ繁殖は昨年より大幅に減少

(平成3年 浅川のカルガモ繁殖状況調査結果)

浅川で繁殖しているカルガモを1988年以来毎年カウントしています。今年も例年どおり浅川の本支流を15に区分し、会員が分担して6月から7月の間に調査しました。

◎結果は第1表のとおりで、親子連れのファミリー数は57組、子318羽で、
昨年84組、451羽と比べ大幅に減少しました。

◎本支流別の内訳は第2表のとおりで、浅川本流、川口川、南浅川、城山川での
減少が顕著です。

◎各区分別の内訳は第3表のとおりで、浅川の全ての区間でカルガモが繁殖して
いること、浅川本流(鶴巻橋～大和田橋)、川口川(明治橋～浅川合流点)、
湯殿川(白旗橋～時田橋)で多くの親子連れをカウントしました。

なお、本年の区分別調査担当者は次のとおりです。(取りまとめ：粕谷 和夫)

- | | | | |
|------|------|-----------------|---------------------|
| (1) | 北浅川 | (大沢橋 ~ 陵北大橋) | ・・・今井 達郎、関根 伸一、馬場 裕 |
| (2) | 北浅川 | (陵北大橋 ~ 松枝橋) | ・・・河村 道寛・洋子 |
| (3) | 浅川本流 | (松枝橋 ~ 鶴巻橋) | ・・・福島 弥四郎、清水 茂、大関 豊 |
| (4) | 浅川本流 | (鶴巻橋 ~ 大和田橋) | ・・・藤江 豊、田中 英吉 |
| (5) | 浅川本流 | (大和田橋 ~ 長沼橋) | ・・・斎藤 高昭 |
| (6) | 浅川本流 | (長沼橋 ~ 一番橋) | ・・・門口 一雄 |
| (7) | 浅川本流 | (一番橋 ~ 多摩川合流点) | ・阿江 範彦 |
| (8) | 川口川 | (川口橋 ~ 明治橋) | ・・・関根 伸一・光世 |
| (9) | 川口川 | (明治橋 ~ 浅川合流点) | ・・・三好 恒雄 |
| (10) | 南浅川 | (案内橋 ~ 敷島橋) | ・・・川上 恚 |
| (11) | 南浅川 | (敷島橋 ~ 浅川合流点) | ・・・榛沢 務 |
| (12) | 城山川 | (月夜嶺新橋 ~ 浅川合流点) | ・・・木村 晴美 |
| (13) | 山田川 | (山田橋 ~ 浅川合流点) | ・・・門口 一雄 |
| (14) | 湯殿川 | (白旗橋 ~ 時田橋) | ・・・阪田 友道 |
| (15) | 湯殿川 | (時田橋 ~ 浅川合流点) | ・・・平沢 辰夫 |

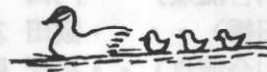


(第1表) 浅川におけるカルガモの繁殖状況年次変化 (単位: 組、羽)

年	親子連れ				子無し成鳥
	組数	親	子	平均子数	
1988	52	52	276	5.3	402
1989	45	49	228	5.1	379
1990	84	88	451	5.4	594
1991	57	61	318	5.6	537

(第2表) 浅川の本支流別カルガモの親子連れ組数 (単位: 組)

年	北浅川	浅川本流	川口川	南浅川	城山川	山田川	湯殿川	計
	大沢橋 ~ 松枝橋	松枝橋 ~ 多摩川 合流点	川口橋 ~ 浅川 合流点	案内橋 ~ 浅川 合流点	月夜峰 新橋~ 浅川 合流点	山田橋 ~ 浅川 合流点	白旗橋 ~ 浅川 合流点	
1988	2	30	13	2	0	1	4	52
1989	0	18	7	6	9	1	4	45
1990	2	36	15	11	9	1	10	84
1991	2	22	10	5	5	1	12	57



(第3表) 平成3年区間別カルガモ調査結果 (1991年6月~7月)

区 間	親子連れ			子無し 成鳥
	組数	親	子	
1. 北浅川 (大沢橋~陵北大橋)	1	1	4	12
2. " (陵北大橋~松枝橋)	1	1	9	21
3. 浅川本流 (松枝橋~鶴巻橋)	3	3	16	14
4. " (鶴巻橋~大和田橋)	9	9	56	71
5. " (大和田橋~長沼橋)	4	4	21	80
6. " (長沼橋~一番橋)	4	4	11	64
7. " (一番橋~多摩川合流点)	2	2	11	32
8. 川口川 (川口橋~明治橋)	2	2	6	13
9. " (明治橋~浅川合流点)	8	8	43	111
10. 南浅川 (案内橋~敷島橋)	1	2	7	2
11. " (敷島橋~浅川合流点)	4	4	24	37
12. 城山川 (月夜峰新橋~浅川合流点)	5	6	32	29
13. 山田川 (山田橋~浅川合流点)	1	2	3	15
14. 湯殿川 (白旗橋~時田橋)	7	7	47	21
15. " (時田橋~浅川合流点)	5	6	28	15
計	57	61	318	537

(追記) 昨年の会報「かわせみ」第5号(1990年8月)の7ページ第1表の表側、「北浅川(陵北大橋~鶴巻橋)」とあるのは「~松枝橋)」の誤りでした。訂正します。

ハクセキレイの集団ねぐら(No.3)

粕谷 和夫・田中 英吉

八王子市横山町三角広場にある常緑樹数本(ヤマモモ及びクスノキ)を、ハクセキレイが集団ねぐらとして利用しています。このハクセキレイの数を早朝の飛び出し時に、1990年(平成2年)2月から毎月1回カウントしています。最初は粕谷が担当していましたが、本年4月に岡山市に転勤になったため、それ以降は田中が引き継いでいます。

現在までのカウント結果は下表の通りで、季節による飛び出し時刻の変化、数の変化が明らかになりました。

なお、ここはハクセキレイの夜のねぐらであって繁殖の場(巣)ではありません。

ハクセキレイの集団ねぐら 月別・時刻別飛び出し数

年-月-日 (平成)	時刻 担当	3:00	3:31	4:01	4:31	5:01	5:31	6:01	6:31	合計
		3:30	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	
2-2-11	粕谷							167		167
3-19	〃					38	5			43
4-07	〃			7	163	2				172
5-07	〃		8	42	3					53
6-26	〃	1	6	5						12
7-23	〃		1	15						16
8-19	〃			2	29					31
9-16	〃				46	78				124
10-15	〃				5	377	21			403
11-18	〃					97	247	5		349
12-08	〃					3	197	124		324
3-1-16	〃							32	7	39
2-17	〃							339		339
3-24	〃					256				256
4-22	田中			7	58					65
5-18	〃			27						27
6-18	〃		9	19						28

「八王子の市の鳥を選ぶ会」に出席して

木村晴美

6月1日午前10時より市役所の201号会議室に於いて同会が開催され市側からの八王子カワセミ会からは女性委員をという要請により、私が会の推薦により出席いたしました。

会議は、先ず市長の挨拶に始まり、参加委員の自己紹介の後、議事にはいりました。

最初に、他市の状況報告と八王子自然友の会会長の金井郁夫氏の八王子の鳥についての説明があり、選定方法、推薦すべき鳥について、各界代表の委員から意見、提案が出され、討論されました。

主たる意見・提案内容は次のとおりです。

☆ 野鳥の宝庫である八王子市が他市と同じ鳥を選ぶ必要は無いという意見が大半を占め、他市で既に決まっている鳥は除くこととなり、カワセミ会が推薦した6種の鳥（カワセミ、カガモ、メジロ、ホオジロ、セグロセキレイ、シジュウカラ、）はカルガモとホオジロの2種に限定されました。

又、八王子は高尾山という有名な観光地があるのだから、これを抜きにしては考えられない。故にデザイン効果のある絵になる鳥が良いのではないかと、姿・声が良い珍鳥にした方が、市の宣伝になるのではないかと。

歴史的に意義の深いイワツバメはどうか（害虫駆除の為、長野県から人工移殖した鳥で八王子に定着した最初の鳥）。

学園都市だからフクロウはどうか、etc

農業委員会からは、選んで欲しくない害のある鳥としてオナガ、カケス、キジ、ヒヨドリ、カラス、スズメ、キジバトが出されました。

★ 種々論議が繰り広げられましたが、金井委員から、山の鳥、山・川の鳥、川の鳥、街の鳥、と分けて選ぶ方法が提案、採択されました。

先ず、山の鳥についてはブッポウソウ、アカショウビンの2種からブッポウソウ。オオルリ、キビタキの2種からオオルリと2種がすんなり決まりました。

山・川の鳥についてはヤマセミ1種で、これも問題なく決まりました。

街の鳥についてはイワツバメ、コゲラのうちイワツバメが決まりました。

川の鳥についてはカルガモ、シラサギ（サギ全般）、セキレイ（同）の3種が挙げられ、意見が分かれて結論が中々出ず難行しました。私としては

1. 子供連れのカルガモは何ともほほえましい。
1. 誰でも知っている鳥で親しみやすい。
1. 親子連れのカルガモはデザイン的にも絵になる。
1. 浅川での繁殖状況。

を挙げて推薦意見を屢々述べ、カルガモを強力に推した結果、最終的に

カルガモに決定した時は、これでカワセミ会を代表して来た役割の一端を無事果たすことが出来てホッとした次第です。

本会議における諸先輩委員の方の意見は大変参考になり、私にとって新たな刺激となりました。 こういう貴重な機会にめぐり会えたことを深く感謝します。又、中学時代に生物を教えていただいた金井先生の暖か味のある人柄に再会出来たことを、なつかしく、うれしく思いました。

以上

上記の木村委員の報告のとおり、八王子市の鳥の候補として次の5種が選ばれました。

○ブッポウソウ ○オオルリ ○ヤマセミ ○イワツバメ ○カルガモ

☆ スケジュール

(1) 7月15日・・・広報「はちおうじ」に募集記事を掲載

(2) 7月15日～8月10日・・・応募期間

(3) 8月中・・・第2回「八王子の市の鳥を選ぶ会」の開催
投票結果による市の鳥決定

※ 市の鳥として選定された鳥を投票した応募者の中から抽選により、5名の方に記念品を、さらに、応募者全員から抽選により100名の方に記念のテレホンカードが贈られます。

※ 投票場所は、市役所、事務所等10か所程度が予定されます。

(4) 選定発表

平成3年10月1日(市制記念日)市制75周年式典・広報で市の鳥発表

★ 「八王子の市の鳥を選ぶ会」の委員の方々は次のとおり

金井郁夫(八王子自然友の会会長)、増井光子(多摩動物園園長)、
島崎利平(日本野鳥の会・東京支部)、伊藤和足(野鳥写真家)、
菱山忠三郎(八王子観光協会)、立花 晃(八王子商工会議所専務理事)
峰尾清治(農業委員会会長職代行)、上島良治(八王子市助役)、
吉本吉久(八王子市議会議長)、木村晴美(八王子カワセミ会幹事)

— 順不同：敬称略 —

「市の鳥選定」事業担当事務局

八王子市生活文化部文化課：(0426)26-3111 内線2533.



平成3年：桜の花を食べるスズメの調査

——八王子市では珍しくなくなった？——

本年も昨年に引き続き桜の開花期に桜の花を食べるスズメの調査を会員に呼び掛けて実施した。本年は桜の開花が昨年より遅く、八王子では4月7日の日曜日頃が見頃となったが、当日は雨となってしまった。

したがって4月5日、6日に調査した粕谷会員の報告が中心となったが、本年は次表のとおり、八王子市のいたる所で桜の花を食べるスズメを観察できた。花の咲いている木の下に行ってみれば、その内の1～2本は（場所によってはもっと多い）必ずスズメが花を食べていた（実際に食べていたもの9例、食べた証拠として、まるごと落下した花が地上に散乱していたもの23例）。

八王子では、このような現象は余り珍しくないのではないかと思われた。

本年の観察では、落下した花に混ざってツボミもかなり多く落ちていた。

また、スズメの他にカワラヒワが桜のツボミを食べている事例が報告された

なお、本調査は昨年の調査に準じて行ったものであり、昨年の調査方法、結果については「かわせみ」第5号（1990年8月）を参照されたい。

（とりまとめ：粕谷和夫）

観 察 結 果 (1991年)

月 日	観 察 場 所	観 察 状 況			観 察 者 名
		スズメ有無	樹数	落下数	
4:5	大和田6丁目、浅川堤	1羽飛去る	1	1	小山
"	上野町、本立寺	落花のみ	2	40	粕谷
"	上野町、金剛院	"	1	20	"
"	八王子養護学校、台町3丁目	"	1	20	"
"	富士森児童公園、台町2丁目	"	1	5	"
"	富士森市民プール、同上	"	2	600	"
"	富士森野球場、同上	"	1	30	"

月 日	観 察 場 所	観 察 状 況			観 察 者 名
		スズメ有無	樹数	落花数	
4:5	富士森公園。 台町2丁目	落花のみ	4	700	粕谷
"	広園寺。 山田町	"	※1	20	"
"	由井第3小。 小比企町	"	3	20	"
"	片倉城跡公園。 片倉町	"	1	10	"
"	医療刑務所。 子安町3丁目	"	2	20	"
"	子安公園。 子安町4丁目	"	1	5	"
"	第7小。 台町4丁目	"	1	100	"
"	八王子盲学校。 台町3丁目	"	1	30	"
"	都立2商高校。 同上	"	2	200	"
4:6	暁公園。 暁町1丁目	"	2	20	"
"	暁児童公園。 元横山町1丁目	"	3	250	"
"	元横公園。 大和田町7丁目	1羽が花を 落していた	5	100	"
"	浅川大和田3丁目グランド	1樹で2羽 花を落とす	9	1500	"
"	浅川堤 (八高線~新浅川橋) 大和田1丁目	2樹で10羽 花を落とす	10	700	"
"	日野滝合小。 日野市西平山 2丁目	落花のみ	1	10	"
"	日本水産八王子総合工場 北野町	1樹で2羽 花を落とす	3	700	"
"	打越中学校。 同上	落花のみ	2	700	"
"	北野天満神社。 同上	"	1	10	"
"	西平岡公園。 平岡町	"	1	5	"
"	第2小。 八木町	"	1	5	"
4:9	清川町グランド。 清川町	1樹で3羽 花を落とす	数本	各樹に 3~10	永見
4:14	同 上	落花のみ	1	700	"

月 日	観 察 場 所	観 察 状 況			観 察 者 数
		スズメ有無	樹数	落下数	
4:11	日本機械工業。秋川街道 中野上町2丁目	3樹で3羽 花を落とす (写真アリ)	13	不明	三好
4:14	浅川・松枝橋下流200Mの右岸 泉町	1樹で3羽 花を落とす	3	不明	河村 夫妻
4:16	大和田橋上流。水管橋南岸脇 元横山町1丁目	1樹で2羽 花を落とす	1	50	三好

注) 1. ※の広園寺の桜はシダレザクラで、他は全てソメイヨシノです。

2. 観察者のフルネームは次のとおりです(小山万太郎、粕谷和夫、永見博子、河村道寛・洋子、三好恒雄)。

○ スズメ以外の野鳥の観察例

月・日	種 名	観 察 状 況
3・23	カワラヒワ	ソメイヨシノの花のツボミを食べる。 (八王子市片倉城跡公園、本丸広場の桜、2羽 のカワラヒワがさかんにツボミを食べていた) 平沢辰夫氏観察。
	ヒヨドリ	別 掲 (グルメ志向のヒヨドリ)

野鳥の集団ネグラ調査にご協力を

ただいま野鳥の集団ネグラ調査を行っています。皆さんの身近な所にスズメ、ムクドリなどのネグラがありましたら、「かわせみ」第6号で配布した調査要領により、この調査にぜひ取り組んでみて下さい。

ヒヨドリ

最近、エディブル・フラワーと称して、美しい花をサラダなどにして食べることが流行してきましたが、ヒヨドリの世界でも、様々な花などを食べる例が観察されています。

次ページの表は平成3年の春に観察されたもので、花ではヒイラギナンテン、コブシ、レンギョウ、ドウダンツツジ、実ではクチナシですが、変わったところではモクセイを食べるものもありました。

これに似た例として、日本野鳥の会東京支部の会報「ユリカモメ」の平成3年5月号（11ページ）にサンゴジュの葉を食べるヒヨドリが掲載されています。

これには食い千切られた葉の図も載っていますが、モクセイの場合もこの図によく似ていました。

なお、次表の他に平成3年3月3日（日）、第1回浅川わくわくワークショップ・フィールドワークの帰路、京王線南平駅のホーム隣の杉の木に、数羽のヒヨドリがとまっていて、杉の葉か実がよく判らなかったが、盛んに食べていたのを、粕谷他カワセミ会の会員が観察しております。

● ヒヨドリが花などを食べる観察例（1991年）

月日	場 所	観 察 状 況
3. 3	八王子市天神町の住宅の庭	クチナシの実を食べた・粕谷和夫観察 (赤い実に穴をあけて食べた)
3. 18	八王子市天神町の住宅の庭	ヒイラギナンテンの花を食べた・粕谷 (1羽が黄色い花とツボミを食べた)
3. 下旬	八王子市川町の住宅の庭	コブシのツボミを食べた・今井達郎観察
4. 6	浅川堤（八高線～新浅川橋）大和田町1丁目	レンギョウの花を食べた・粕谷、小山 万太郎観察＝2羽が黄色い花を食べた
4. 6	八王子市天神町の住宅の庭	モクセイの葉を食べた・粕谷観察 (1羽が新葉でなく、古くて堅い葉を パパ音を立て、食べていた。1枚の葉 全部を食べるわけではなく、それぞれの 葉は半分以上食べ残した)

5. 6	八王子市天神町の住宅の庭	ドウダンツツジの花を食べた・粕谷観察（1羽が食べた。昨年も観察されている）
3. 10 頃より 数日間	八王子市北野町の住宅の庭	ドックフードを食べた・平沢辰夫観察（1羽が鳥の給餌台に置いた径5～6cmの球状のドックフードをくわえて、石などに当てて、たたいて食べた。カワセミが魚を叩くのと同一要領）

（とりまとめ：粕谷和夫）

東浅川のヒメアマツバメの生態

—2年間の調査結果の概要—

川上表

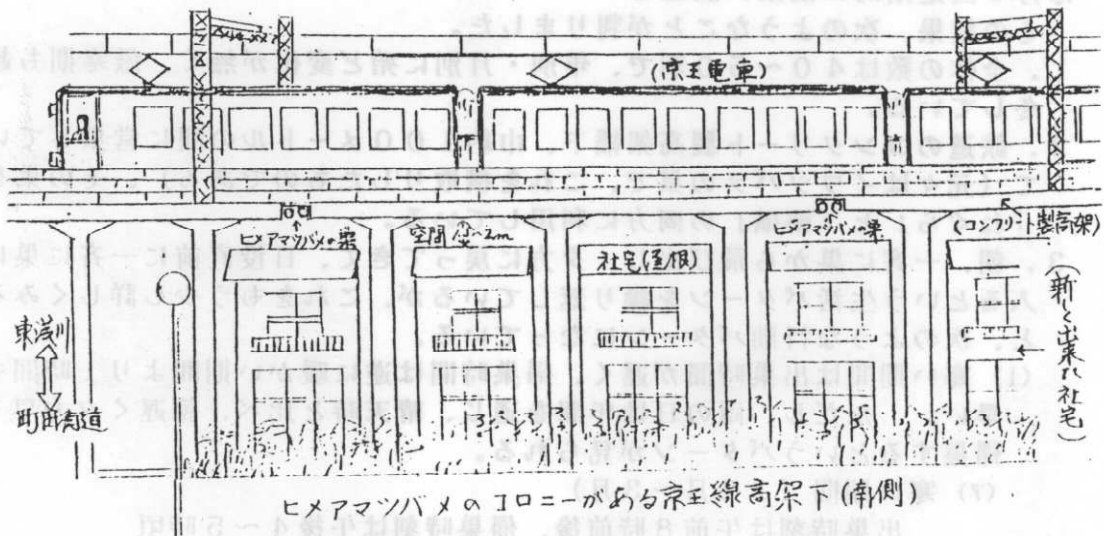
八王子市東浅川の京王高尾線高架橋下（町田街道と交差する付近）にヒメアマツバメの貴重なコロニーがあり、このコロニーを1989年6月から、毎月1回定期的に観察、調査をしています。

その結果、次のようなことが判りました。

1. 全体の数は40～50羽で、年別・月別に殆ど変化が無く、厳寒期も越冬している。
2. 鉄道のコンクリート製高架橋下、巾約100メートルの間に営巣していて（元々はイワツバメの巣で、これを横取りしたものである）、その巣を「ねぐら」と「繁殖」の両方に利用している。
3. 朝、一斉に巣から飛び出し、夕方に戻ってきて、日没直前に一斉に巣に入るという生活パターンを繰り返しているが、これをもう少し詳しくみると、次のような行動パターンになっている。
 - (1) 寒い期間は出巢時間が遅く、帰巢時間は逆に暖かい期間より1時間も早い。ただし、雨の日は年間を通じ、晴天時と比べ、朝遅く夕方早く帰巢するというパターンが見られる。
 - (2) 寒い期間（12月～3月）
出巢時刻は午前8時前後、帰巢時刻は午後4～5時頃
 - (3) 暖かい期間（4月～10月）
出巢時刻は午前6時半～7時頃、帰巢時刻は午後6時頃

- (2) 昼間、巣の出入りが認められるのは、4月～11月で、この期間には空中ランデブー（空中接触）が認められ、育雛期と考えられる（実際に雛が確認できたのは、5月、9月、10月でした）。
4. イワツバメは、1989年には東端で2巣繁殖したが、1990年から1991年にかけて完全に巣を放棄してしまった。
5. 1990年8月から営巣直下（高架橋下の空洞部分）の空地を利用して京王帝都電鉄（株）が社宅の建設を始め、2階建て住宅約40戸が翌年4月に完成した。
- これにより、貴重なコロニーが破壊されるのではないかと心配をしたが
- ① 昨年（平成2年）11月に東京都緑の推進委員会・八王子の会を通じ、その保護を申し入れたところ、会社側が保護を約束してくれ、
 - ② 社宅の屋根と巣までの間に1.5～2メートルの空間が設けられた。
- この処置により、現在のところは特に目立った影響は出ていないと思われる。
- ただ、今後の観察が困難な状況になっている。

〔図・ヒメアマツバメの巣と社宅との位置関係〕



鳥信 鳥信

鳥信



: 1991. 1~6 :

1. 夏鳥の初認

(1) サ サ ゴ イ

- | | | | |
|-------|-----|----------------|---------|
| 4. 21 | 1 羽 | 浅 川 (新浅川橋下流側) | 齋藤高昭 |
| 5. 5 | 1 羽 | " (松枝橋下流400M) | 河村道寛・洋子 |
| 5. 23 | 1 羽 | " (浅川橋下流関口建設前) | 榎沢 務 |
| 5. 23 | 1 羽 | " (浅川橋下流側) | 田中英吉 |

(2) コ チ ド リ

- | | | | |
|-------|-----|--------------|------|
| 3. 17 | 2 羽 | 浅 川 (暁橋上流側) | 齋藤高昭 |
| 3. 17 | 2 羽 | " (中央線鉄橋上流側) | 齋 藤 |

(3) カ ッ コ ウ

- | | | | |
|-------|-----|---------------------|--------------|
| 5. 30 | 2 羽 | 多摩川 (滝山城跡下、河原) | 三好恒雄 |
| 6. 1 | 1 羽 | 北浅川 (元木橋上流 20M左岸樹上) | 今井達郎 |
| 6. 1 | 1 羽 | 浅川実験林 | 関根伸一
川上 恵 |

(4) ホ ト ト ギ ス

- | | | | |
|-------|-----|-----------------|---------------|
| 5. 25 | 1 羽 | 北浅川 (松竹橋上流・声のみ) | 今 井 |
| 6. 1 | 1 羽 | 北浅川 (大沢橋~陵北大橋) | 今井・関根
馬場 裕 |

(5) ツ ツ ド リ

- | | | | |
|------|-----|-----------|-------------------------|
| 5. 5 | 声のみ | 恩方 (松竹林道) | 今 井 |
| 5. 5 | " | 裏高尾 (小下沢) | 粕谷、榎沢、齋藤、平沢、馬場
河村夫妻、 |

(6) ツ バ メ

- | | | | |
|-------|-----|------------------|------------------|
| 3. 16 | 1 羽 | 浅 川 (暁橋~浅川大橋) | 榎沢、小山万太郎
田中夫妻 |
| 3. 16 | 1 羽 | " (松枝橋下流300M) | 河 村 |
| 3. 16 | 1 羽 | 八王子市 (泉町) | 河 村 |
| 3. 17 | 1 羽 | 浅 川 (松枝橋~鶴巻橋) | 粕谷、福島、清水、大関 |
| 3. 17 | 1 羽 | " (萩原橋付近) | 榎 沢 |
| 3. 19 | 2 羽 | " (中央高速道架橋付近) | 永見博子 |
| 3. 26 | 2 羽 | 八王子市 (中野上町・営巢開始) | 清水 茂 |

- (7) イ ウ ツ バ メ
- | | | | |
|------|-----|-----------------|------------|
| 3.11 | 8羽 | 南浅川 (多摩御陵の橋の上空) | 清 水 |
| 3.14 | 6羽 | 浅 川 (浅川橋～暁橋) | 福島弥四郎 |
| 3.16 | 8羽 | " (暁橋～浅川大橋) | 榛沢、小山、田中夫妻 |
| 3.17 | 3羽 | " (萩原橋付近) | 榛 沢 |
| 3.17 | 2羽 | " (大和田橋付近) | 斎 藤 |
| 3.19 | 10羽 | J R 八王子駅 | 粕 谷 |
| 3.27 | 2羽 | 浅 川 (中央高速道橋) | 永 見 |

- (8) ウグイスのさえずり
- | | | | |
|------|--|--------------------|-----|
| 2.26 | | 八王子市北野台 | 平 沢 |
| 3.13 | | 元八王子3丁目霞ヶ丘住宅 (川上庭) | 川 上 |

- (9) オ オ ヨ シ キ リ
- | | | | |
|------|-----|--------------------|---------|
| 4.26 | ♂1羽 | 多摩川 (滝山城下、河原) | 三 好 |
| 4.26 | ♂1羽 | 浅 川 (鶴巻橋上流側) | 清 水 |
| 5. 4 | ♂1羽 | 寺沢川 (八王子市堀の内) | 粕谷、馬場夫妻 |
| 5. 6 | ♂1羽 | 浅 川 (浅川橋～暁橋) | 粕 谷 |
| 5.18 | ♂1羽 | 湯殿川 (殿田橋～白旗橋の南側畑地) | 平 沢 |

- (10) キ ビ タ キ
- | | | | |
|------|-----|------|---------|
| 5. 4 | ♂2羽 | 長沼公園 | 粕谷、馬場夫妻 |
|------|-----|------|---------|

- (11) オ オ ル リ
- | | | | |
|------|-----|-----------|-----|
| 5. 5 | ♂1羽 | 高尾山稲荷山コース | 永 見 |
|------|-----|-----------|-----|

2. 冬鳥の終認

- (1) コ ガ モ
- | | | | |
|------|----|-------------|-----|
| 5.10 | 数羽 | 浅 川 (浅川橋付近) | 福 島 |
|------|----|-------------|-----|
- (2) オ ナ ガ ガ モ
- | | | | |
|------|-----|----------------|-----|
| 5.19 | ♀1羽 | 浅 川 (大和田橋～長沼橋) | 斎 藤 |
|------|-----|----------------|-----|
- (3) キンクロハジロ
- | | | | |
|------|-----|--------------|-------|
| 5.21 | ♂1羽 | 多摩川 (ひょうたん池) | 榛沢、三好 |
| 5.22 | ♂1羽 | " " | 小山、三好 |
- (4) ヒ ド リ ガ モ
- | | | | |
|------|-----|-----------------|-----|
| 5.20 | ♀1羽 | 浅 川 (浅川大橋～大和田橋) | 小 山 |
|------|-----|-----------------|-----|
- (5) ツ グ ミ
- | | | | |
|------|----|----------------|-------|
| 5.10 | 数羽 | 浅 川 (浅川大橋付近) | 福 島 |
| 5.12 | 1羽 | " (新浅川橋下流100M) | 公開探鳥会 |
| 7. 7 | 1羽 | " (松枝住宅側堤防下) | 河村夫妻 |

3. 浅川周辺における希少種

(1) カイツブリ

12.12-13	1羽	浅川	(平山橋～一番橋)	三富恒男
1.19-26	1羽	"	(")	三富
2.3	2羽	"	(陵北大橋～松枝橋)	河村夫妻
2.10	2羽	"	(平山中学校下流300M側)	川浦丹二郎

(2) カワウ

平成3年1月13日、多摩川合流点にて1羽確認し、以後平成3年3月31日に最高250羽の観察をピークに同年5月5日迄47回にわたり会員により観察が行われ、5月中旬以降は鳥影を確認していない。なお、別途詳細記録有り。

(3) ダイサギ

1.13	1羽	浅川	(松枝橋～鶴巻橋)	三好
1.13	1羽	"	(鶴巻橋～大和田橋)	田中、藤江
1.13	9羽	"	(大和田橋～長沼橋)	斎藤
1.13	10羽	"	(長沼橋～一番橋)	門口、川浦、渡嘉敷敏子
1.13	8羽	"	(一番橋～多摩川合流)	阿江、山崎
1.13	2羽	南浅川	(敷島橋～浅川合流)	榎沢
1.20	4羽	浅川	(鶴巻橋～大和田橋)	榎沢
2.3	3羽	"	(長沼橋～一番橋)	門口、馬場、山崎夫妻
2.13	6羽	"	(大和田橋～長沼橋)	斎藤藤
2.19	4羽	"	(鶴巻橋～大和田橋)	榎沢
2.24	1羽	"	(一番橋～多摩川合流)	阿江
3.9	7羽	"	(長沼橋～一番橋)	門口、馬場
3.16	1羽	"	(浅川大橋付近)	福島
3.17	5羽	"	(大和田橋～長沼橋)	斎藤藤
3.17	5羽	"	(鶴巻橋～大和田橋)	榎沢
3.23	1羽	"	(浅川大橋付近)	福島
4.6	1羽	"	(一番橋～多摩川合流)	阿江

(4) アオサギ

1.13	2羽	浅川	(鶴巻橋～大和田橋)	藤枝、田中
1.13	4羽	"	(大和田橋～長沼橋)	斎藤藤
1.13	2羽	"	(一番橋～多摩川合流)	阿江、山崎
1.20	1羽	"	(鶴巻橋～大和田橋)	榎沢
2.13	2羽	"	(大和田橋～長沼橋)	斎藤藤
2.24	1羽	"	(平山橋～一番橋)	三富
2.24	1羽	"	(一番橋～多摩川合流)	阿江

(4) アオサギ (続き)

3. 10	1羽	東京薬科大学	川	浦
3. 16	1羽	浅川 (浅川大橋付近)	福	島
3. 17	1羽	" (松枝橋~鶴巻橋)	粕谷、福島、清水、大関	
3. 17	1羽	" (大和田橋~長沼橋)	斎藤	
4. 22	1羽	" (")	斎藤	

(5) クロトキ

2. 24	1羽	浅川 (一番橋~多摩川合流)	阿	江
3. 17	1羽	" (大和田橋~長沼橋)	斎藤	

(6) アメリカコガモ

1. 3♂	1羽	浅川 (長沼橋下流側)	小山、	門口
1. 6♂	1羽	" (")	斎藤	藤
1. 7♂	1羽	" (")	田中	
1. 8♂	1羽	" (")	榎	沢
1. 13♂	1羽	" (長沼橋上流側)	斎藤	藤
2. 3♂	1羽	" (長沼橋下流側)	門口、馬場、山崎	夫妻
2. 10♂	1羽	" (")	川	浦
2. 13♂	1羽	" (長沼橋上流側)	斎藤	藤
3. 9♂	1羽	" (")	門口、馬場	
4. 19♂	1羽	" (")	門口、馬場、山崎	

(7) ヨシガモ

1. 13	1羽	浅川 (一番橋~多摩川合流)	阿江、	山崎
4. 21♀	1羽	" (中央線鉄橋下流側)	斎藤	藤

(8) オカヨシガモ

1. 13	3羽	浅川 (長沼橋~一番橋)	門口、渡嘉敷、川浦	
1. 13	1羽	南浅川 (敷島橋~浅川合流)	榎	沢
2. 3	2羽	浅川 (長沼橋~一番橋)	門口、馬場、山崎	夫妻
3. 9	2羽	" (")	門口、馬場	

(9) アメリカヒドリ

2. 27♂	1羽	多摩川 (滝山城跡下・ヒドリガモの群の中)	三	好
--------	----	-----------------------	---	---

(10) キンクロハジロ

1. 13	1羽	浅川 (一番橋~多摩川合流)	阿江、	山崎
-------	----	----------------	-----	----

(11) ミコアイサ

1. 8♀	1羽	浅川 (新浅川橋~水菅橋)	榎	沢
1. 8♂♀各	1羽	" (平山橋~一番橋)	三	富
1. 13	8羽	" (大和田橋~長沼橋)	斎藤	藤
1. 13	14羽	" (長沼橋~一番橋)	門口、渡嘉敷、川浦	
1. 13	8羽	" (一番橋~多摩川合流)	阿江、	山崎

(11) ミコアイサ (続き)

2. 3	4羽	浅川 (長沼橋～一番橋)	門口、馬場、山崎夫妻
2. 13	♀ 1羽	" (大和田橋～長沼橋)	斎藤
2. 19	♂ 4. ♀ 2羽	" (平山橋～一番橋)	三富
2. 26	♂ 3羽	" (長沼橋上流側)	三富
3. 9	8羽	" (長沼橋～一番橋)	門口、馬場
3. 17	♂ ♀ 各 1羽	" (大和田橋～長沼橋)	斎藤

(12) オオタカ

4. 4	若 1羽	浅川 (大和田橋上流水管橋付近)	斎藤
4. 6	1羽	" (陵北大橋～松枝橋)	今井、大関、河村夫妻
6. 1	1羽	北浅川 (恩方地区上空)	今井、大関、関根伸一

(13) ハイタカ

1. 7	a. m 1羽	小宮公園 (ターンテーブル上空)	斎藤、小山
1. 7	p. m 1羽	" (池の上空)	斎藤

(14) ノスリ

1. 4	1羽	小宮公園	斎藤
------	----	------	----

(15) サシバ

5. 4	2羽	長沼公園	粕谷、馬場夫妻
------	----	------	---------

(16) ハヤブサ

3. 17	1羽	浅川 (大和田橋下流側 NTTアンテナ塔)	斎藤
-------	----	-----------------------	----

(17) ハマシギ

1. 13	5羽	浅川 (中央線鉄橋下流側)	斎藤
2. 13	1羽	" (大和田橋～長沼橋)	斎藤
3. 9	1羽	" (長沼橋下流、落合小学校前)	川浦
4. 19	11羽	" (長沼橋～一番橋)	門口、馬場、山崎
5. 18	3羽	" (")	門口、馬場、山崎

(18) クサシギ

1. 13	1羽	浅川 (陵北大橋～松枝橋)	河村夫妻
1. 13	1羽	" (大和田橋～長沼橋)	斎藤
3. 27	1羽	" (")	斎藤
5. 18	1羽	湯殿川 (住吉橋～白旗橋)	平沢

(19) キアシシギ

5. 6	3羽	浅川 (八高線鉄橋下流側)	斎藤
5. 6	1羽	" (浅川大橋～大和田橋)	斎藤
5. 18	5羽	" (長沼橋～一番橋)	門口、馬場、山崎
5. 19	4羽	" (松枝橋～鶴巻橋)	福島、清水、大関、北平章
5. 25	3羽	" (陵北大橋上流50-70M付近)	今井

- (20) タ シ ギ (多) セトマロシ (11)
1. 13 1 羽 浅川 (大和田橋～長沼橋) 齋 藤
 1. 13 1 羽 " (陵北大橋～松枝橋) 河村夫妻
 1. 13 1 羽 " (松枝橋～鶴巻橋) 三好
 1. 13 2 羽 城山川 (月夜峰新橋～浅川合流) 木村晴美
 2. 10 1 羽 浅川 (滝合橋上流側) 川 浦
 2. 24 2 羽 " (松枝橋～鶴巻橋) 粕谷、福島、清水、大関
 3. 17 2 羽 " (") " " " (51)
 3. 17 2 羽 " (大和田橋～長沼橋) 齋 藤
- (21) セ グ 口 カ モ メ (大北) (8)
1. 13 2 羽 浅川 (鶴巻橋～大和田橋) 藤江、田中
 1. 13 2 羽 " (大和田橋～長沼橋) 齋 藤
 1. 13 1 羽 " (長沼橋～一番橋) 門口、渡嘉敷、川浦
 1. 20 2 羽 " (鶴巻橋～大和田橋) 榎 沢
 2. 上旬 3 羽 " (大和田橋付近) 小 山
 2. 3 2 羽 " (長沼橋～一番橋) 門口、馬場、山崎夫妻
 2. 13 6 羽 " (大和田橋～長沼橋) 齋 藤
 2. 24 2 羽 " (松枝橋～鶴巻橋) 粕谷、福島、清水、大関
 2. 24 1 羽 " (一番橋～多摩川合流) 阿 江
 3. 9 3 羽 " (長沼橋～一番橋) 門口、馬場
 3. 16 1 羽 " (浅川大橋付近) 福 島
 3. 17 3 羽 " (鶴巻橋～大和田橋) 榎 沢
 3. 17 5 羽 " (大和田橋～長沼橋) 齋 藤
- (22) ヒ メ ア マ ツ バ メ (新) (8)
5. 4約10羽 長沼公園 粕谷、馬場夫妻
- (23) ア リ ス イ (新) (8)
4. 13 1 羽 浅川 (松江橋上流200M右岸の木) 河村夫妻
- (24) ア オ ゲ ラ (新) (大北) (8)
1. 4 1 羽 小宮公園 齋 藤
 1. 13 1 羽 北浅川 (元木橋付近) 今井、関根
 1. 19 1 羽 片倉城跡公園 平 沢
 2. 21 1 羽 小宮公園 藤江、田中
 3. 30 1 羽 " 榎沢、藤江、田中
 4. 24 1 羽 " 藤江、田中
 5. 4♂1 羽 八王子市堀の内 粕谷、馬場夫妻
 5. 20 1 羽 八王子市大和田 福 島
 5. 30 1 羽 小宮公園 藤江、田中

- (25) アカゲラ
5.19 1羽 片倉城跡公園 平沢、三富
- (26) ビンズイ
3.24 1羽 小宮公園 斎藤
- (27) キレンジャク・ヒレンジャク
3.3 キレンジャク 7羽 日野市日野台の住宅 粕谷、大関、河村夫妻
ヒレンジャク 28羽 のピラカンサの木 馬場、川上、今井、他
3.3 キレンジャク 3羽 同上
ヒレンジャク 65羽 (ピラカンサを食べる) 大関、斎藤、三好
3.30 キレンジャク 1羽 小宮公園 榛沢、藤江、田中
4.2 キレンジャク 1羽 浅川(松枝橋下流300M右岸の木) 河村洋子
4.3 キレンジャク 1羽 " (9時と11時の2回観察) 河村洋子
4.9 ヒレンジャク 5羽 " (松枝橋下流200M右岸の
4.14 " 11羽 " タチヤナギの花を食べ、川の 河村洋子
4.17 " 7羽 " 水を飲む)
4.21 ヒレンジャク 4羽 " (中央高速道上流の林) 福島、清水、他
4.26 ヒレンジャク 3羽 多摩川(滝山城跡下の河原のニセアカシヤ) 三好
- (28) カワガラス
1.13 1羽 北浅川(松竹橋付近) 今井、関根
1.13 1羽 南浅川(案内橋~敷島橋) 川上
- (29) ルリビタキ
1.26 1羽 小宮公園 粕谷
1.28 ♂♀ 1羽 " 小山
1.29 1羽 " 藤江、田中
2.21 1羽 " 藤江、田中
3.30 1羽 " 榛沢、藤江、田中
- (30) アカハラ
1.13 ♂ 1羽 浅川(中央線鉄橋下流左岸・ニセアカシヤの林) 斎藤
2.3 1羽 八王子市中野山王(喜福寺) 粕谷
3.24 ♀ 1羽 小宮公園 斎藤
4.24 2羽 " 藤江、田中
- (31) シロハラ
1.29 1羽 小宮公園 藤江、田中
2.3 1羽 北浅川(松竹橋下流200M付近) 今井、木村、関根
2.21 1羽 小宮公園 藤江、田中
1.13 1羽 山田川(山田橋~浅川合流) 馬場、阪田友道
- (32) ヒメガラ
2.21 3羽 小宮公園 藤江、田中

- (33) エナガ
1. 13 10羽 北浅川 (川原宿大橋上流側の竹やぶ) 今井、関根
 1. 13 4羽 浅川 (松枝橋下流200Mの北側の林) 三好
 2. 10 4羽 長沼公園 川浦
 2. 21 1羽 小宮公園 藤江、田中
 2. 23 5羽 片倉城跡公園 平沢
 3. 2 6羽 北浅川 (大沢橋～陵北大橋) 今井、関根
- (34) ヤマガラ
2. 10 5羽 長沼公園 川浦
- (35) ホオアカ
5. 6 2羽 浅川 (八高線鉄橋～新浅川橋) 斎藤
- (36) ミヤマホオジロ
1. 7A.M 雄♀ 1羽 小宮公園 小山、斎藤
 1. 7P.M 4羽 小宮公園 斎藤
- (37) オオジュリン
2. 13 4羽 浅川 (大和田橋～長沼橋) 斎藤
 2. 24 4羽 " (松枝橋～鶴巻橋) 粕谷、福島、清水、大関
 3. 17 15羽 " (") " " "
- (38) イカル
1. 30A.M 10 40羽± 上川霊園バス停南丘陵、大仙寺西側 三好
 林の中 (地上で採餌)
 2. 23 約20羽の群 湯殿川 (時田大橋～白旗橋) 平沢
- (39) コムクドリ
4. 14 雄♀ 1羽 湯殿川 (小比企町、数羽のムクドリの中) 平沢
- (40) カケス
3. 9 1羽 長沼公園 川浦

4. 行動：繁殖

- (1) コガモ
2. 3 囲い追い行動 浅川 (長沼橋～一番橋) 門口、馬場、山崎夫妻
- (2) ハシビロガモ
2. 27 交尾 多摩川 (拜島橋上流、堰堤の水上) 三好
- (3) コムクドリ
4. 21 交尾 湯殿川 (住吉橋～白旗橋) 平沢
- (4) ユリカモメ
2. 5～14 0羽 浅川 (大和田橋付近、2月になって飛来
 が無く、2月15日に7羽飛来) 小山

- (5) シロハラ
 ※ 本文「私の野鳥観察ノートより」参照 平 沢
- (6) ジョウビタキ
 ※ 本文「私の野鳥観察ノートより」参照 平 沢
- (7) チョウゲンボウ
 5. 12 浅川 (大和田橋～中央線鉄橋間で番いを確認、
 内1羽が新浅川橋の下に入る) 探鳥会
 5. 17 " (新浅川橋下の営巣を確認) 斎 藤
 6. 19 " (近くの水道局の貯水タンクの手摺に、
 巣立ち直後のヒナ2羽と親鳥2羽を確認) 斎 藤
- (8) コチドリ
 4. 28 営巣=卵2個抱卵中=
 浅川 (大和田橋上流、水管橋付近) 斎 藤
 5. 18 営巣の可能性
 湯殿川 (浅川合流点付近で1番、殿田橋上流で
 2番、セキレイなどを激しく追いはらう) 平 沢
- (9) コゲラ
 5. 4 長沼公園 (造巢中) 粕谷、馬場夫妻
 5. 19 5羽の巣立ちヒナ (片倉城跡公園) 平沢、三富
- (10) イワツバメ
 5. 18 新たに完成した京王線北野駅周辺の高架構造物
 に17巣を確認 平 沢
- (11) ハシボソカラス
 3. 31 営巣=抱卵中=国道20号西八王子
 (中央図書館バス停付近の街路樹イチョウの木の上) 今 井
- (12) シジュウカラ
 4. 1～4. 20 営巣 (八王子市大横町。大東京火災駐車場
 のブロック塀の割れ目=ヒナ2羽かえる) 三 好

5. その他

- (1) カジカガエル
 5. 2, 6. 8 浅川 (陵北大橋～松枝橋) 河村夫妻
 5. 5 北浅川 (川原宿橋上流と下流) 今 井
 6. 1 " (大沢橋～陵北大橋) 今井、馬場、関根
- (2) アマガエル
 4. 13 八王子市川町 (住宅の庭の芝) 今 井
- (3) イタチ
 2. 27 1頭 多摩川 (滝山城跡下の河原) 三 好

ウォッチング・コーナー

ただ今 224 種

私の野鳥生涯観察記録

粕谷 和夫

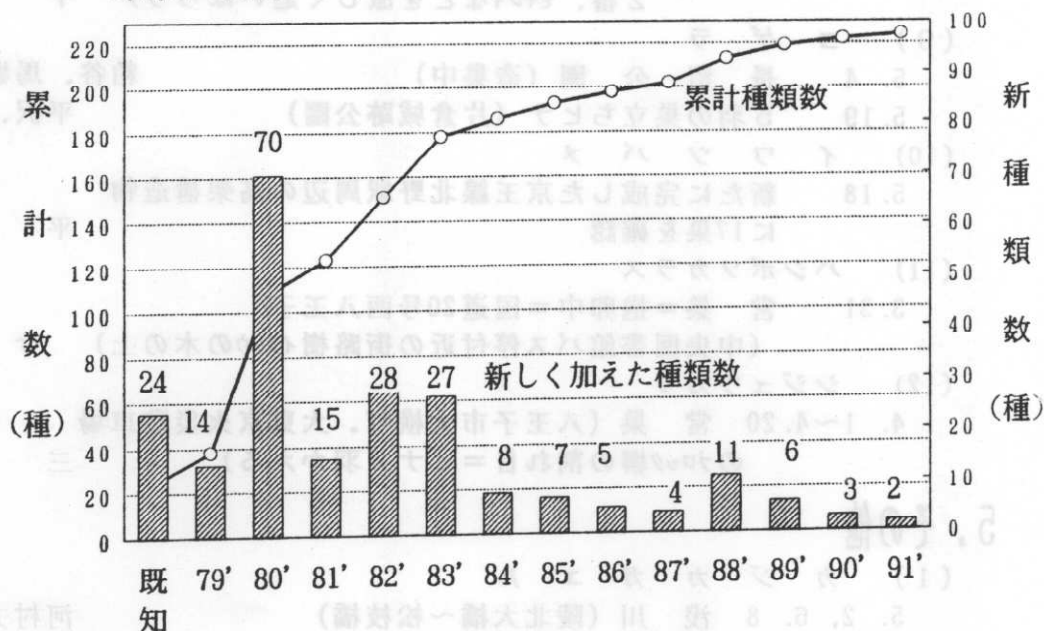
珍鳥ばかりを求めるのはバードウォッチングの本質とは思わないが、本人にとって今まで見たことのない新しい鳥の種類をふやしてゆくことはバードウォッチングの楽しみの一つであり、このような気持ちを持つことがバードウォッチングを永続させる大きなエネルギーになっていることは間違いないと思う。

私は、バードウォッチングを始めて今年で13年目、今までに見た日本の野鳥の種類を整理したら下図のとおりとなった。

当然のことながら、最初のうちは急激に増加するが、数が増えるに従い新しい種類に出会う機会が少なくなってくる。私の場合100種までは最初の1年で達成したが、次の100種に7年を要した。

今後は1年に1~2種しか増えないと思われるが、その代わり新しい鳥と出会えばより大きな感激が得られるのではないかと期待しているところである。

野鳥との出会いライフレコード



なお、224種は次に掲げるとおり18都道府県の範囲で出会っているが、これは私が転勤のため仙台市(1979'~1982')、八王子市(1982'~1987'、1989~1991')、名古屋(1987'~1989')及び岡山市(1991'~)と住所が次々に変わったことによること大きい(224種に出会った所:北海道、青森、岩手、宮城、秋田、福島、埼玉、千葉、東京、神奈川、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、岡山、佐賀)



1. 我が家の庭に住みついたシロハラ

2月24日午後、餌台のリンゴを食べに来るツグミ・メジロ達が実に美しいので、カメラを据えて待っているうち、ふと覗いたレンズ(300ミリ)の中に全く違う鳥が入っている！ エッ、シロハラ？ まさか、いやシロハラに違いないと信じられない思いでしたが、翌朝も隣家との境の檜の生垣の中程にじっと止まっているのを発見、更に26, 27日の朝6時頃からポピリオン、キョロン、クイーというさえずりの声と共に来てくれるようになり、シロハラと断定することが出来ました。

その後、毎朝の観察で、隣家が庭で犬に与えているドックフードが主なお目当てと判り、それを分けてもらい、投げ与えるとチョコ チョコッと出て来てくわえていくように迄なり、4月8日迄、写真やビデオにも撮って観察することが出来、次のような生態記録を得ることができました。

- (1) 実に陰性な鳥で、雨天や曇った日の方が好きなようで、木の上部にはほとんど出ないで、中程から下の枝の中、地面の暗いところにじっとしている。
- (2) 地鳴きは、シーッとかクイーッと聞こえる強い声で、さえずりはポピリオン、キョロン・キョロンとアカハラとほとんど同じ。
- (3) 投げ与えた餌は、その場では食わず、くわえて見えないところに入り又、投げるとスーッと出てくる。
- (4) ヒヨドリ、ツグミなどが来ると猛烈に追い出し、神経質なようである。
- (5) 木の葉からの雨滴をさかんに飲む。

2. ジョウビタキの餌付

比較的暖かな好天が続いた今年の冬の遺跡発掘現場(町田市小山地区の丘陵)に、ジョウビタキの♂1羽と♀2羽がテリトリーを持ち、表土を剥ぎとる際に堀り出される虫を求めて、作業員の近く迄来るようになっていた。

そこで、私はおばさん達にも協力してもらい、虫を集めて投げ与えたりして餌付けに成功した。

昼食の弁当のゴハン粒、パン屑、玉子焼、肉をほごした物やリンゴ、ミカンなどを一緒に並べて4~5日観察してみたところ、なんと、それらの物には一切口をつけず、専ら虫だけを食べています。

「やってみました」

平成3年5月14日の読売新聞特集記事「やってみました」は、八王子カワセミ会の指導で、高校生の関さんがバードウォッチングに挑戦したことが掲載されています。この取材が、3月21日浅川の長沼橋下流で20名の会員が参加行われました。

この時の挑戦者 関さんから感想文が届きましたので紹介します。

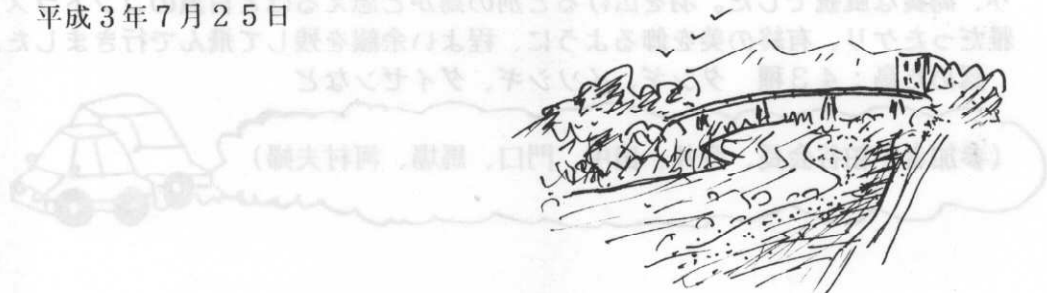
「バードウォッチングをしてみて」

今回バードウォッチングに参加させていただいて私は「人生観が変わった」とか「自然は何よりも貴い」とか、そんな大それたことは感じませんでした。感じたことはたった二つ。「鳥の目はなんて可愛らしいのだろう」ということと「御日様はなんて気持ちがいいのだろう」ということでした。そんなことだけか、と思われるかも知れませんが、時間に追われながら、ただ毎日を過ごしていた私にとっては、心休まる大きな発見でした。瞬きをしている鳥の顔は本当に可愛らしくて、今でもはっきりと覚えています。バードウォッチングを経験してからは、学校の帰り道、周りを見て自然を楽しみながら帰るようになりました。本当にいい経験をさせていただきました。八王子カワセミ会のみなさま、読売新聞社の山根さんに本当に感謝いたします。

最後に、この東京にこのような鳥の住める自然がずっと残ってくれるといいと思います。

穎明館高等学校3年 関 和 佳 子

平成3年7月25日



名古屋探鳥会

(平成3年2月9日~11日)

河村 洋子

ケリを見たい、運がよければ、カワアイサ、コウライアイサも...とすると、これまで見た鳥は140何種になるかしらと、ちょっと胸算用などしてみる名古屋行きでした。遠出の探鳥会は、種類が増えてゆく期待に胸がはずみます。

さて、初日、一行七名は二台の車に分乗。中央高速でタイヤがパンクするハプニングはあったものの無事、虎渓山へ。寺の前を流れる川は工事で、期待していたオシドリの姿はなく、境内の林にオシドリの大きな巣箱がいくつか掛かっているのを見ました。

認めた鳥：20種 ヤマガラ、シメ、カワセミなど。

二日目は、予報通りの雨。庄内川河口から、弥富野鳥公園を回り、フラミンゴやヨシガモ、ダイシャクシギなど多くの水鳥を見ました。庄内川河口での心残りは、遥か遠くにポツンと白くしか見えなかったツクシガモ。

でもお目当てのケリを見ました。初めて見るケリは地上では全体が灰色っぽく地味ですが、飛んだ時の羽の美しさは意外な発見でした。タゲリとは一年振りの再会で、恨めしい雨もこれで帳消しです。

木曾三川展望タワーでは、木曾川、長良川、揖斐川の雄大な三河川の流れを見おろし、いい所に連れて来ていただいたと、おまけのコースに感激しました。

木曾三川から川島町へ来た時はもう雨も止み、カワアイサをじっくり観察できました。コウライアイサの姿がなかったのは残念でしたが、充実した一日でした。

認めた鳥

庄内川河口：27種 ヨシガモ、キンクロハジロ、ダイシャクシギなど。

弥富公園と周辺：17種 ケリ、タゲリ、アオサギなど。

木曾三川~川島町：22種 カワアイサ、カンムリカイツブリなど。

最終日は快晴でしたが、フィールドスコープも震えるほどの強い風でした。汐川干潟では、ホシハジロ、スズガモ、キンクロハジロ、マガモ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、カワウ、シロチドリ、ハマシギなど、種類の多さもさることながら、とにかくウジャウジャ見飽きる程の数は圧巻でした。

最後にまたタゲリとケリが姿を見せてくれました。ピンと反った黒い冠羽と光沢ある緑色、光の角度によっては銅色にも見える羽、ミューと鳴いてヒラヒラ飛んだタゲリ、高貴な風貌でした。羽を広げると別の鳥かと思えるほど白黒のコントラストが優雅だったケリ、有終の美を飾るように、程よい余韻を残して飛んで行きました。

認めた鳥：43種 タシギ、イソシギ、ダイゼンなど

(参加者：粕谷会長、今井、田中、門口、馬場、河村夫婦)





川上 表

平成3年4月27日(土)28日(日)29日(休日)を利用して、実施された上信越高原・国立公園「戸隠探鳥会」は、残雪のなか天候に恵まれたうえ、NACS-J自然観察指導員・田中和作先生のご指導、ご案内をいただき、お陰様で40種もの鳥を観ることができました。

特に、「オオジシギ」「オオアカゲラ」など初めて出会った種が多く、日本三大野鳥棲息地の一つといわれる戸隠高原の自然と、多くの野鳥がさえずる素晴らしい環境に驚嘆……

この探鳥会を企画された方々と、連日、現地を案内して下さった田中先生にお礼を申し上げると共に、ゴム長靴を用意され我々全員に貸して下さった一花と野鳥の宿「越水ロッジ」の社長さんに感謝しております。

5月11日(土)NHK衛星第2で8時30分から21時30分まで放映された、野鳥スペシャル「素晴らしき森の仲間たち」-戸隠高原より-を視聴された方も多かったと思いますが、本当に素晴らしいところでした。

瑠璃色、黒い顔、真っ白な腹、の「コルリ」をみんなで見つけた奥社参道10メートル程に近づいて来てくれた「クロツグミ」に感激……

素足になって弁当を食べたキャンプ場、残雪の多かった森林植物園、

野鳥の美しい姿、透き通るような歌声、水芭蕉の咲く雪解けの小径……

今でも、まぶたに浮かんできます。又、機会があったら是非行ってみたい所です。

：戸隠高原探鳥会概要：(参加者12名)

4月27日(土) -晴- 7時30分・JR八王子駅発(あずさ1号)に乗車
松本駅で(しなの3号)に乗り換え、11時07分長野駅着。田中和作先生に
迎えられ、駅前で昼食。タクシーに分乗し、12時30分越水ロッジに到着。

少休憩後、周辺探鳥。

4月28日(日) -晴- 5時起床、朝食前8時まで探鳥。朝食後、ロッジ
特製の弁当を持って終日探鳥(キャンプ場で昼食)。

4月29日(休日) -曇- 5時起きで奥社参道まで探鳥、8時30分ロッジ
に戻り朝食。しばらく休憩をとり、11時にタクシーをコールして分乗、越水
ロッジの皆さんに別れをつけ、戸隠高原を後にした。

長野市の善光寺前でタクシーを降り、御開帳で眠ろう善光寺を参拝の後、
東山魁夷美術館を見学する。

昼食を善光寺で一番美味しい?そば処「小菅亭」で食べ、善光寺門前町付近
を自由散策しながら長野駅へ着く。

長野駅発16時10分の(しなの26号)に乗車、松本駅で(あずさ30号)に乗り換える。車中では缶ビールで乾杯をし、ツマミをまわしながら、探鳥談議に花を咲かせているうち、19時34分JR八王子駅に帰着。

素晴らしかった戸隠高原探鳥会は全員無事終了、解散しました。

：観察できた40種：(五十音順)

アオゲラ、アオジ、アカゲラ、アカハラ、イカル、ウグイス、エナガ、オオアカゲラ、オオジシギ、オナガ、カケス、カルガモ、カワラヒワ、キジバト、キジ(声)、キセキレイ、キビタキ、クロツグミ、コガラ、コサメビタキ、ゴジュウカラ、コムクドリ、コルリ、コガモ(声)、サシバ、シジュウカラ、センダイムシクイ(声)、ツグミ、ニューナイスズメ、ノジコ、ノスリ、ハシボソカラス、ヒガラ、ヒヨドリ、ホオジロ、マミジロ、ミソサザイ、モズ、ヤブサメ、—以上—

小瑠璃鳴く奥社参道雪残る

志

=私からも一言=

「戸隠山、残雪、ミズバショウ、オオジシギ、キビタキ、クロツグミ、ニューナイスズメ、コムクドリ等々、三日間の探鳥会に大満足！同行のNACS-Jの田中さん、三好幹事の案内指導に感謝！ただ、楽しみにしていた戸隠の地酒、手打ちソバにお目にかかれず残念！また行きたいね」

榎沢 務

「遠い遠い戸隠への往復が全く苦にならない、むしろ楽しいつろぎのうちで、あの広大な地区を見事に先導下さったNACS-Jの田中氏を得ての探鳥成果、そして、カワセミ会としては珍しく程よいアルコール量のお陰で、早朝からみっちり健康で快適に山歩きのできたこと等々、すべて企画、手配、配慮の賜物と感謝するのみ。

私には正に、[戸隠や、ああ戸隠や戸隠や!] でありました。三好さんアリガトウ、藤江さんゴメンナサイ」

平沢辰夫

「戸隠山を前方に、残雪の中での探鳥会。キビタキ、コルリの色あざやかさ、コサメビタキの愛くるしい眼元、オオジシギの高原上空でのディスプレイ、またアオジの名アレンジャーぶりには驚かされる事しばしばでした」

木村晴美



「昨年の5月19-20日の両日、歩け歩けの団体で、北信州路ワークに参加した2日目の朝、戸隠奥社の入口から森林植物公園に向かって歩いている時、大勢のバードウォッチャーに会いました。こんな素晴らしい環境で探鳥をしているのがうらやましく、是非来たいものと思っていたら、それが直ぐやってきたのでした。

藤江さん、三好さんのお陰で往復の列車は指定席でゆっくり行けました。着いて早速の探鳥で、「オオジシギ」と云う初めて聞く名前の鳥を見る。翌日は、昨年うらやましく見た奥社入口からの探鳥。目の前の雪の上に白と黒のコントラスト、黄色いくちばしの「クロツグミ」の見事な姿を見て感激。

「キビタキ」の声に上を見ると、鮮やかなオレンジ色が木立の間に見え隠れしている。首の痛くなるのも忘れて見入りました。

最後の日、出発前の一時、門口さんに誘われてロッジの裏で再び「オオジシギ」を見る。パッチリ見えた、初日よりよく間近で見られた。

今回の探鳥会では色々な鳥を教えてもらい、「ジョウカラ」「アゲラ」を初め14種も増え、私のパーティは81種になりました。有難うございます。

田中英吉

憎きカラス！.....



それは5月半ば頃の出来事でした。

突然、外で小鳥の悲鳴がしました。事務所から飛び出してみると、庭の桐の木の枝で、何とハシブトカラスが巣立つたばかりのスズメのヒナをくわえ、羽をむしり取っているではありませんか。

私はとっさに傍らの小枝を拾って木を叩きますと、カラスは獲物を落として飛んでいってしまいました。

拾いあげてみると、何とヒナは内蔵がはみだして無惨な死体となっていました。可愛想に何日かの短い命でした.....

人間、誰もが「弱きものに味方するのが常.....」その時は何と憎いカラス奴がと思いました.....が.....、カラスには巣にヒナが餌を待っていたのかも知れない、弱肉強食、これも自然のおきてで仕方のないことなのかと思いました。

猛禽類のオオタカやチョウゲンボウなどは、小鳥を食物としているのを普段は別に気になりませんが、何故か雑食のカラスやオナガだと抵抗を感じます。僕の偏見かな.....

清水 茂



第六回 朝霧高原探鳥会 (平成3年5月25・26日)

山崎 悠一

今年の朝霧高原探鳥会は、天候に恵まれ、参加者に恵まれ、鳥に恵まれ、バーベキューとお酒の量にも恵まれ、第6回なのに少しもマンネリの雰囲気のない探鳥会でした。初日、御庭では期待のホシガラスは見られなかったが、奥庭の売店傍らの水場でつがいのウソの水浴びをじっくり見たことと幼いキクイタダキを手にとりて見ることができたのが大収穫でした。

別荘に着いてからの周辺散策では、カラ類がせわしく動きまわるのが見え沢山のさえずりが聞こえました。

榛沢さんと両夫人の料理準備、その他大勢の竈の準備が終わり、夕方明るいうちからのバーベキューと宴会は賑やかでかつ満腹。

26日朝5時からの別荘周辺散策ではメボソムシクイやセンダイムシクイを見ることができ感激しました。別荘を8時に出発し朝霧高原に着いた途端、オオジシギ、チゴモズ、アカモズ、ノスリ、カッコウ、ホオアカ、ウグイス、など見やすい枯れ木に止まりじっくり姿を見せてくれ大満足でした。

参加者 藤江、田中、榛沢、平沢、河村夫妻、門口、馬場夫妻、関根、大関、山崎 以上12名

御庭・奥庭 : センダイムシクイ、メボソムシクイ、ヒガラ、ルリビタキ、アマツバメ、キクイタダキ、ウソ、ハシブトガラス 以上8種

別荘周辺(午後) : ミソサザイ、センダイムシクイ、ヒヨドリ、カワラヒワ、ウグイス、コルリ、カケス、コゲラ、イカル、ツツドリ、キジバト、コガラ、カッコウ、コガラ、ゴジュウカラ、ヤブサメ、トラツグミ、クロツグミ、ハシボソガラス、キジ、ハシブトガラス 以上21種

別荘周辺(朝) : ミソサザイ、ゴジュウケイ、キビタキ、ウグイス、キジバト、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、メボソムシクイ、ピンズイ、シジュウカラ、カワラヒワ、カケス、ハシブトガラス、アオゲラ、ヒヨドリ、センダイムシクイ、ハシボソガラス、コルリ、キジ、イカル、ゴジュウカラ 以上22種

朝霧高原 : オオジシギ、チゴモズ、モズ、アカモズ、ホトトギス、カッコウ、ノスリ、ウグイス、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジ、アカハラ、ヒヨドリ、イカル、ヒバリ、ホオアカ、シジュウカラ、ホオジロ、キジバト、アオジ 以上20種

最後に探鳥会に時期を合わせて別荘のお風呂と布団を新調して頂いた藤江さんに心から感謝申し上げます。



大 関 豊

私はまだ初心者です。だからベテランの人達の話は、聞いているだけで楽しく又大変勉強になります。時々ベテランの人達には常識でも初心者にはアレッ、と思うことがあります。

(感違い・その一)

藤江さんの別荘でバーベキューパーティー。それも野鳥のさえずりを聞きながら・・・それはもう最高でした。

「タレ」は甘口か、辛口か? 「シオ」は無いか? 「ショウユ」を下さい・・・などと舌づつみをうちながら食も話もはずむうち・・・

「これは、ミソだな」とベテランのKさん、

「え、ミソ?!」 「ミソなんかあったかなあ」と一瞬、首をかしげていると、「うん、ミソかも知れない・・・」 「ミソサザイみたいだね」とベテランのHさん。

なあーんだ! 「ミソ」とは「ミソサザイ」のことだったのか・・・あゝ、感違い!・・・

(感違い・その二)

「名古屋では大地震に出会って・・・すごかったな、あれは・・・」と、またまたベテランのFさん達の会話。

「フーン、長くやっていると地震にも遭うのか、いろんな事に出会うんだなあ、大変なんだなあ・・・」と一私

その後、朝霧高原について直ぐザザザッ・・・と変な音。

「あっ、オオジシ〇だ!」とKさん。 「えっ、何ですか?」

「オオジシギだよ、音がすごいんだ」

「名古屋以来だな、この音は、一度聞くと忘れないな」とFさん。ここで始めて納得した次第。

あゝ、感違い!・・・

大地震 正体見たり オオジシギ

因みに、Kさんは門口さん、Hさんは榛沢さん、平沢さん、Fさんは藤江さんでした。

尾瀬探鳥会に参加して

関根伸一

昨年5月に八王子カワセミ会に入会してようやく1年、スタート時は20種位の野鳥しか判らず、先輩方が教えてくれる名前を図鑑と照合し納得してきました。1年たつと、毎回参加する毎に数種の新しい野鳥が確認でき、現在私の図鑑より拾える鳥は93種である。

6月22日尾瀬探鳥会はJR八王子駅を朝5時30分にスタート、生憎の雨であったが西那須野IC経由、檜枝岐村の御池駐車場に11時に到着した行程約300キロメートル。

途中、檜枝岐付近で馬場夫妻が車の中からヤマセミを発見したが、車を止めることができず残念ながら通り過ぎる。

早めに昼食をとり、今日の宿泊地である見晴し十字路へ向かって全員13名が門口さんをリーダーにスタートする。雨も止み探鳥日よりの天候となる

尾瀬は初めての私は、野原を歩く位に考えていたが、スタートから木道は急な登り下りの連続で、考えの甘さを思い知らされた。

途中、オオルリが枯木の先端で鳴いており、チングルマ、ワタスゲ、ヒメシャクナゲ、ニッコウキスゲ、ミズバショウ等の高山植物を観察しながら、午後5時頃、原の小屋に到着。(木道が濡れていて滑りやすく2日間で3度も転んでしまった。雨の時は気をつけてください)

小屋の周辺では、多数のニューナイスズメ、イワツバメを観察する。

第1日目：認めた鳥： 24種

：ベスト5： オオルリ、ビンズイ、アカゲラ、ホオアカ、キビタキ

23日は、朝5時から尾瀬ヶ原を散策し、ホオアカ、オオジシギを確認。尾瀬沼に着くと、マガモ、オシドリ、カイツブリが沼におり、近くでハシボソカラスが草の中の巣から卵を口にくわえて盗むところを2度観察した。

尾瀬沼を半周して、尾瀬ヒュッテで昼食後、沼山峠を経由して御池に到着時間の関係で残念乍ら温泉に入るのを断念し帰途につき、午後9時頃八王子に無事到着、解散となった。

今回の探鳥行で私が初めて見た野鳥は、オオルリ、ホオアカ、ニューナイスズメ、花では、チングルマ、ワタスゲ、ニッコウキスゲ、ヒメシャクナゲミズバショウである。

探鳥会に参加する度に私の宝物は増えてゆくのである。

だから探鳥は止められません。





—私の好きな八王子周辺探鳥コース案内—

北浅川から松竹林道へ

今井達郎

私のフィールドは陣馬街道沿いの北浅川で、陵北大橋（宝生寺団地入口バス停）から大沢橋（大久保バス停）の間の約3.3kmです。川幅が狭くなるので鳥の種類は多くありませんが、上流に進み恩方地区に入ると山が迫り変化に富んでいます。見られる鳥は他の浅川流域とほぼ同じですが、カワセミは12カ月のうち10回は見られ、冬にはカワガラスが現れます。また、大沢橋の近くで見かけ、鳥信に不明鳥として2回報告した鳥は、ヤマセミと確信しています。

私は月例のカウントで上記の担当地域を終えた後、度々松竹林道に入ります。下恩方の松竹橋から南へ進み、この林道の始点から歩き始めるもよし、大沢橋から西南方向にある聖パウロ学園高校の横から山道に入り、林の中を南に向けて登り松竹林道の途中に出るのもよい。ここではカラ類の混群やカケスに出会い、初夏にはウグイスが競い合っさえぶり、その合間にはツツドリの声も近くで聞くことが出来ます。ポポ、ポポと、どの巣に托卵しようかと企んでいるようです。私が初めてウソの番に出会って感激したのも、この松竹林道でした。この道を奥に進むと、北方がひらけて五日市から多摩方面の山々が美しく眺められ、殆ど人に出会うことのない静かな山道です。

林道の始点から約1時間半ほど歩くと裏高尾縦走路（八王子城跡←→堂所山）にぶつかります、ここからはハイキングコースで、小下沢のキャンプ場を下ることも、八王子城跡へ向かい途中の富士見台から小仏関所跡に降りることも、或は、八王子城跡まで行くと造形大学に出る道と、出発点の松竹橋に戻る近道もあります。

私は、弁当持参で朝早く家を出て、ゆっくりと探鳥と山歩きを楽しみ、交通費をいっさいかけずに上記コースを回る1日を、年に2～3回持っています。

近頃の雑感 (その1)

馬場 裕

「何も足さない。何も引かない。」語順はあやしいのですが、これはウイスキーの広告コピー、宣伝文句だったと記憶しています。できたばかりの蒸留酒が樽の中でゆっくりと熟成されてモルトになる、その永いあいだ、どこからも何も加えず、また何かを取り除くこともあえてしないというのです。おそらく、樽の材料である櫨などの原木からは、その香気がわずかながら沁み出したりすることでしょう。が、それでも、アルコールを含んだ液体はみずからまろやかさと芳香を得て、私たちの喜怒哀楽に欠かせぬものとなります。ソーセージ、チーズ、味噌、そして酒なども同様、人知を超えた、こうした自然のはたらきを巧みに活かしつつ、人々は暮しと文化を築いてきました。食べ物だけに限りません。古来より、石や土、動物の毛皮や骨、草木や竹やその他、種々の物を利用して道具や住み家、衣服や薬など、あらゆる生活必需品を作り、またそれとともにテクノロジーを育ててきたわけです。しかも、素材はほとんど天然物であり、取り崩した分量はいずれもそのうちに回復可能な範囲であった——つまり、利子でまかなっていた——といえます。さらに、使えなくなって捨てた後には、ちゃんと元の自然界に還って行きバランスが保たれていました。

しかし、綿々と続いてきたこれらの「いとなみ」が、高度情報化社会への進展に伴ない、確実に変わってきました。とめどない欲望に導かれた拜金の論理と、目先の利便性のみを追った愚かな浅知恵、また他者への思いやりを欠いた、独善的な風潮等・・・が私たちの生活を狂わし始めたのです。ひと昔前ならば余り目立ちしなかった歪みや汚れを、今や何処にでも、いともたやすく見い出せるありさまです。ご存じのように、僕たちがフィールドにしている浅川も、決してその例外ではありません。残念ながら、枚挙にいとまのないほどの汚染に満ち満ちています。捨てられた空き缶にプラスチック容器やビニール袋、ガラス類をはじめ飼犬の糞にバイクや車さえも。そして富栄養のため異常に繁殖した水ゴケ、なによりも、堰で泡立ち、悪臭を放つ川の水そのもの。まさしく、我がフィールドはゴミ捨て場も同然です。いいえ、多摩川水系だけではないようです。相模川も霞ヶ浦も瀬戸内海も、日本中、いや世界中の河川が、海が、森が、大気までが、すなわち地球のあらゆる場所が急激に汚されてきています。太平洋をはじめとする数千メートルの海底の泥にさえ、石鹼やシャンプーの成分である、界面活性剤などが検出されると聞いたことがあります。既にシュバルツバルト、ドイツ黒森の酸性雨による惨状は言うに及ばず、地上で一番清浄な場所であるはずの南極大陸も、各国の観測活動に伴なって基地周辺への汚染が拡がり、「地球の肺」といわれるアマゾン流域の熱帯林も、年間1700万ヘクタールづつ焼き払われるなど、まことに憂慮すべき事態に立ち至っているのです。つい先日のテレビでは、中国四川省の都市、重慶の工業地帯から排出される、年間100～200万トンと推定される膨大な量の硫黄酸化物が、主に酸性霧となって付近の森林に影響し、杉の一種で貴重な特産種である、老巨木が立ち枯れているとのこと。このまま各地の排煙脱硫や浄化が進まないと、国境を超えて、韓国や日本の植生にも被害を与える可能性がある」と報じていました。今や、全地球的な規模で山や湖沼や空が本来の安定な体系を崩し、そこを棲み家としている全ての生命が危機に瀕していると言って過言ではないのです。

公害や生態系の破壊は、科学の世紀といわれる現代の申し子です。こういった言葉をよく耳にするようになったのは、特にここ2、30年ほどのことではないでし

ようか。ちょうどそれ位前でしたか、地べたにへばりついて生きている我々を驚ろかしたことがありました。それは遙か彼方から撮影された、宇宙空間に浮ぶ地球の姿でした。この星の生きとし生ける物は勿論、水も空気も何もかもがみんな一蓮托生なのだ、実に印象的に気づかせてくれるものでした。運命共同体ということであれほど感動的に、すぐれて雄弁に物語る映像を、僕はその後ついぞ知りません。その当時から、「この星こそ、はかなくも美しく尊い、かけがえのない人類のふるさとである」とか、「人間愛や同朋意識の高揚」、衝撃的な「成長の限界理論」と「エネルギーや省資源問題」、「食物連鎖や物質循環と生態系」など、様々な耳新しい難解なことがマスコミにも取り上げられました。歴史的な見地からも戦争は最大の環境破壊であった、熱帯林は生物の多様性の宝庫ゆえ貴重である、今後の社会的規範はエコロジー教育を基礎に、などと喧伝されたのはつい最近になってからでしょうか。

いわゆるETの存在についてあれこれとされていますが、疑うべくも無く私達は、愛すべき鳥達をも含めて、地球に住んでいる宇宙の生命体です。そのことに思い至ると、大気汚染や戦争がいかに愚かなことであるかと痛感させられます。と同時に、隣家の庭などを汚しているかも知れない、我が飼い猫の排泄物をどう始末すべきか、給水制限の起こりかねない夏場など、海に直結しているとも言える台所の流しで、牛乳パックを水洗いして良いものか迷います。日頃から資源を大切にと思い、職場でも家庭でもあらゆるゴミを減らそうと心掛けているハズなのに、飲み終えたジュース缶を平然と電車のなかに捨てていく子供たちや、スーパーのレジの後で、多量のポリ袋をせしめてゆく大人たちにはどう対処したらいいか分かりません。そのジュースにしても、ほんのわずかな果実分とホンモノらしくするため、着香料や着色料、乳化剤や保存料や安定剤など、夥しい種類の添加物を加えた、ぞっとするような飲み物です。泥のついたサトイモやまがったキュウリは売れ残るため、農薬をたっぷり用いてワックスまでかけた、見た目にキレイな食品ばかりが店頭に並びます。マイカーを運転していてバスやトラックの後に付くと、その真黒い排ガスを避けようとしてチャンスを窺い、アクセルをいっぱい踏んでジーゼル車に劣らぬ粉塵をまき散らしながら追い越してゆきます。こうしてみると、どうやら、新しい哲学を見出し得ないままに、いずれの階層レベルにも「悪魔」がいることを認めざるをえなくなるようです。自分の心身にも、集団・組織の活動の中にも、社会構造や国際関係にも、そして自然界には、生物・無生物であるか否かを問わず、天敵や作用・反作用があったことを思い起こします。「沈黙の春」の次に、「DNAは、自分の複製を作るという目的のためには手段を選ばず、その営みこそが生命活動である」ということが書かれているらしい、「そんなバカな」を読んでみるつもりです。

ところで、今年の6月には、永年の夢であった尾瀬を訪れることができました。オオルリ、ホオアカ、コマドリその他、20種以上の鳥たちに恵まれ、探鳥行としてもそれなりに楽しい旅でした。しかし、自然保護の原点であるとともに、観光公害の現場ともなっている湿原などの状況を目の当たりにして、あらためて複雑な思いにかられました。富士山麓の湧水群を源とする柿田川はテレビ放送で紹介されて以来、急速に汚染の速度を増して来たそうです。何も足さず何も引かず、とはあらゆる活動の理想的な形態のような気がします。単に物質やエネルギーの出入りだけでなく、その成果や意義といったものまでもがバランスのとれた状態を保つことだと信じたいのです。余談ながらウスキーの場合は、天使の取り分として、どこの樽でも10数%の目減りを甘受するそうです。いま僕は、まだ箱ウナギ漁やイタチ漁が地元の人々に忘れ去られて仕舞はぬうちに四万十川に行きたいと願っています。

訂 正

1990年7月に発行した「かわせみ 別冊号」(浅川の野鳥展の記録)の一部にまちがいがありましたので、次のとおり訂正します。
 バードカービングを出展された小山会員をはじめ関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。

訂正ヶ所 8ページ 「展示した鳥たち」

正	誤	正	誤	正	誤
カイツブリ	カイツブリ	イソシギ	—	シロハラ	—
ゴイサギ	—	タシギ	タシギ	ツグミ	—
ササゴイ	—	コリカモメ	—	ウグイス	ウグイス
コサギ	コサギ	キジバト	—	コヨシキリ	コヨシキリ
アオサギ	アオサギ	カワセミ	カワセミ	材沖利	材沖利
カルガモ	カルガモ	コゲラ	コゲラ	セッカ	セッカ
コガモ	—	ヒバリ	—	ツウカ	—
ヒドヒガモ	—	ツバメ	—	メジロ	—
オナガガモ	オナガガモ	イワツバメ	—	ホオジロ	—
ミコアイサ	ミコアイサ	アオゲラ	アオゲラ	かたが	かたが
オオタカ	オオタカ	キセキレイ	—	アオジ	—
コジュケイ	コジュケイ	ハセキレイ	—	カワラヒワ	カワラヒワ
キジ	キジ	ツバメ	—	イカル	イカル
クイナ	—	タヒバリ	—	シメ	—
バン	—	ヒヨドリ	—	スズメ	スズメ
コチドリ	—	モズ	モズ	ムクドリ	—
カササギ	—	ツバメ	ツバメ	オナガ	—
キアシシギ	—	アカハラ	アカハラ	53種	24種



寄付 I.

東京都立川市在住の野鳥専門家、津戸英守氏から平成3年3月2日金10000円の寄付を八王子カワセミ会宛いただきました。当会の一般会計に繰り入れ、会の活動資金として活用させていただきます。ありがとうございます。

寄贈 I.

当会員、小山万太郎氏が浅川で見られる野鳥50種について実物大の薄型野鳥模型（バードガイド）を作成し、本年1月の総会で本会に寄贈されました。これは携帯が便利で探鳥会の時に説明用に威力を発揮しております。



編集後記



- ☆ 早いもので、この会報も7号となりました。1年2回の発行なので3年半経ったことになる。すべて、会員有志の手弁当！の奉仕により作られてきた。そろそろ編集子のマンネリを脱する意味でも、新たな発想を持つ人に編集を委譲しては、と考えているが如何・・・・
- ☆ 多くのバードウォッチャーは種類を見分けたらそれで満足してしまう。バードウォッチングには「見つけること」、「見分けること」、「見極めること」の三段階の楽しみがあるという。本号で紹介した「カルガモ親子は何故引越す」という本を編集子は大変興味深く読んだ。一読を是非お薦めしたい。
- ☆ やがて夏鳥と冬鳥の入れ替わる季節となり、野外観察もまた活発になってくる。それにしても、毎度のことながら、河原には犬の糞の放置と空カンの投げ捨てが相変わらず目立つ。これはもう、人間の自覚以外には改善の余地は無いものなのだろうか。
- ☆ 今年前半は、「市の鳥の制定」運動や、八王子青年会議所（JC）主催の「浅川サミット」への賛助協力活動など、会員各位から多くの奉仕をいただいた。改めて御礼申し上げる次第です。

T. M

業務用酒類食品専門卸

株式会社 ジャックル浦島屋

〒192 八王子市元横山町 3-7-14

TEL (0426)25-1477(代表)

FAX (0426)25-1248

事業概要

- ★料飲店用酒・食品卸
- ★酒販店用酒・食品卸
- ★一般家庭用酒・食品宅配
- ★料飲店経営コンサルタント
- ★酒販店経営コンサルタント
- ★酒類量販店経営

事業所

- ★田町配送センター ~田町1-5 TEL 0426-26-4953
FAX 0426-26-8922
- ★田町現金卸売センター『酒市場』 ~田町2-5 TEL 0426-26-1330
本社ビル1階 FAX 0426-25-2581
- ★料飲店経営情報センター ~田町2-5 TEL 0426-25-1477
本社ビル2階 FAX 0426-25-1248
- ★大和田宅配センター ~大和田町2-9-2 TEL 0426-44-6412
FAX 0426-44-6412 (夜間切替)
- ★リカーキング高倉店 ~高倉町50-6 TEL 0426-44-7151
FAX 0426-44-7152
- ★リカーキング北野駅前店~北野町545-5 TEL 0425-45-2282
FAX 0425-44-0059



Hachiōji
Kawasemikai

カ ワ セ ミ

1991年8月

— 第 7 号 —

発行人

粕谷和夫 (八王子カワセミ会・会長)

編集人

三好恒雄

連絡先

八王子市中野上町5-29-3 TEL:0426-26-8634